

2017年 3 月期 決算説明会資料



株式会社アドバネクス

2017年5月25日

本資料は2017年3月31日現在のデータに基づいて作成されております。
本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、予告なしに変更されることがあります。

1. 2017年3月期 連結業績概要
2. 2018年3月期 通期連結業績予想
3. 中期経営計画の目標年度見直し
4. 今後の事業方針

1. 2017年3月期連結業績概要

1-1. 2017年3月期連結業績概要

(単位：百万円)

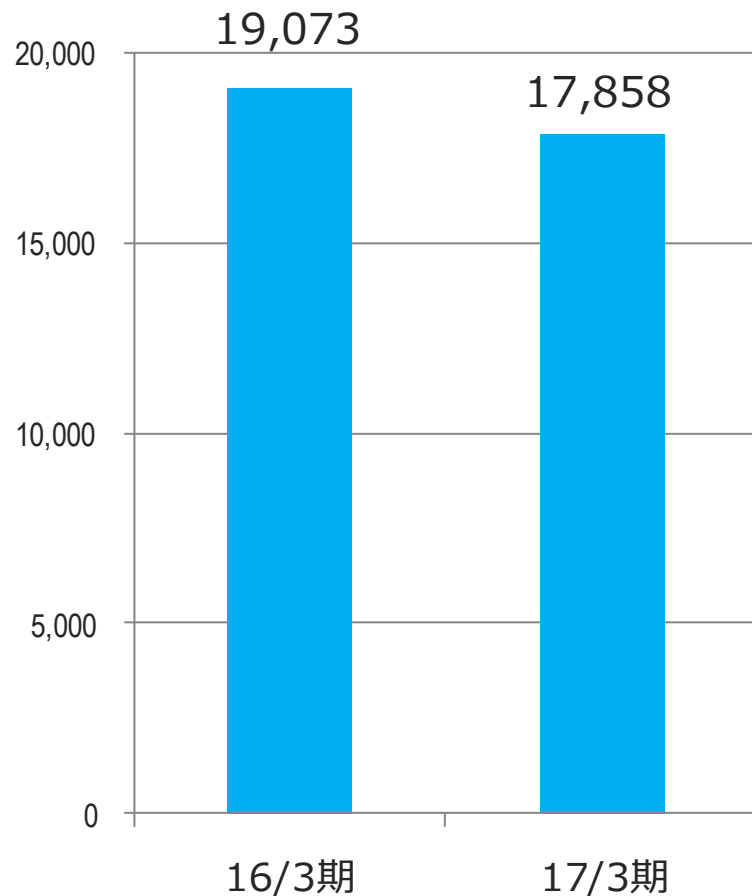
	2016年3月期	2017年3月期	前期増減	
			額	率
売上高	19,073	17,858	△1,214	△6.4%
営業利益	668	247	△421	△63.0%
営業利益率	3.5%	1.4%	-	-
経常利益	671	346	△325	△48.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	587	67	△520	△88.6%

- ◆ 売上高は、自動車向けが拡大したものの、円高（ドル安・ポンド安）の影響と、OA機器向けの減少等により前期比減収
- ◆ 営業利益は、アジアが収益改善した一方、円高による押下げ*¹に加え、新工場*²の立上げによる固定費増加などにより前期比減益
 - *¹為替による営業利益への影響度：US\$が1円円高＝△13百万円/年
 - *²埼玉工場、メキシコ第2工場、アメリカ第2工場、インドネシア工場(PT. Yamakou Indonesia)
- ◆ 経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益も同様に前期比減益

1-3. 通期業績推移

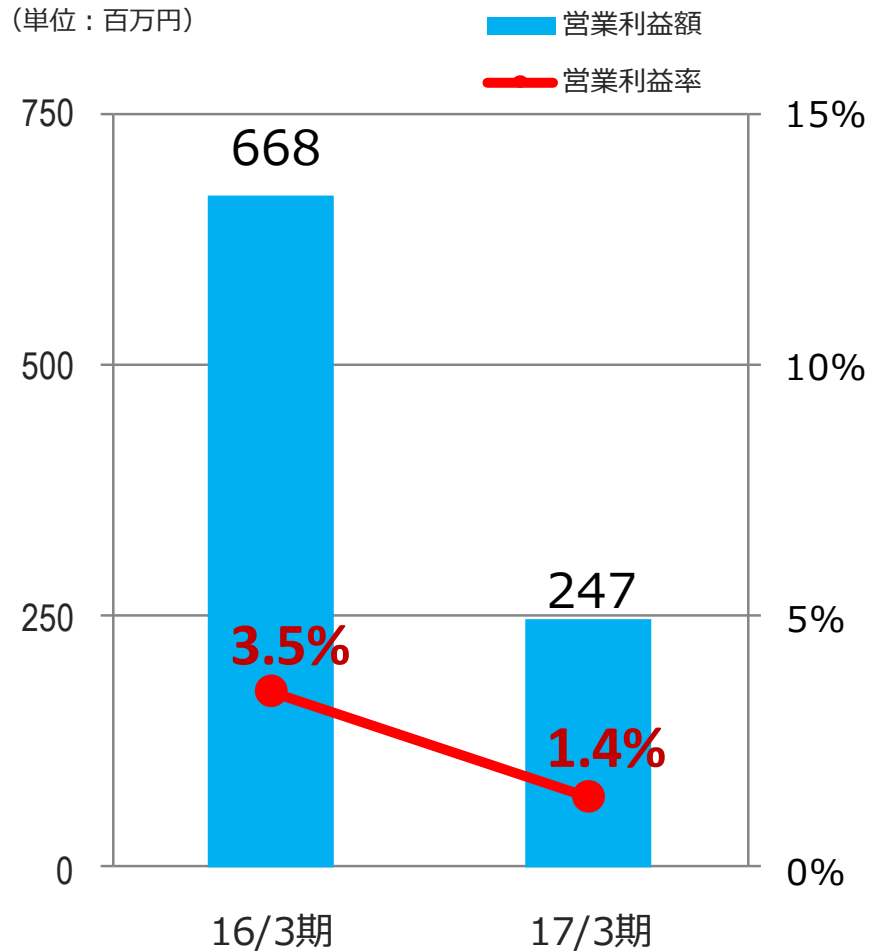
売上高

(単位：百万円)



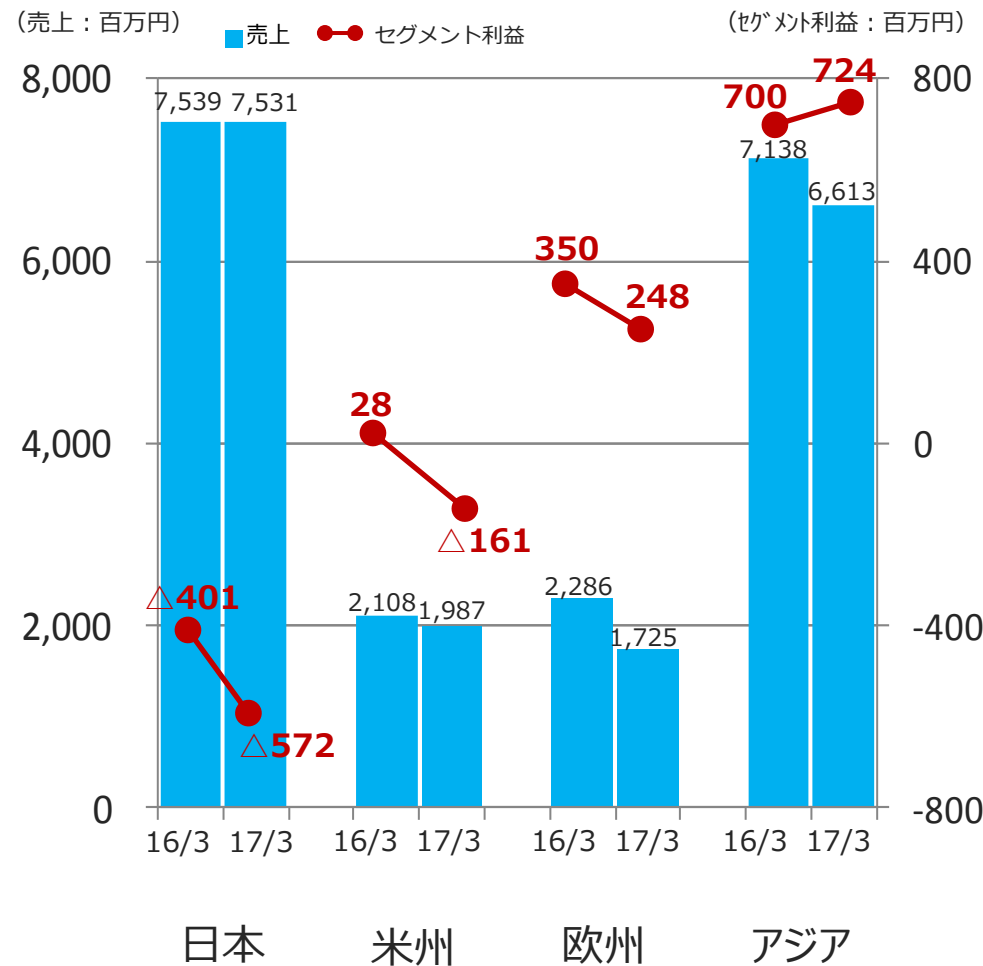
営業利益/営業利益率

(単位：百万円)



1-4. 所在地別売上高・セグメント利益

売上高・セグメント利益



前期からの変動要因

日本 売上:7,531百万円、セグメント利益:△572百万円

- ・自動車向けは好調に推移したもののOA機器向けが減少したほか、埼玉工場の立上げにかかる固定費・経費の増加等により減収減益

米州 売上:1,987百万円、セグメント利益:△161百万円

- ・円高の影響、およびメキシコ第2工場・アメリカ第2工場の立上げにかかる固定費・経費の増加等により減収減益

欧州 売上:1,725百万円、セグメント利益:248百万円

- ・円高の影響のほか、医療向けが減少したことなどにより減収減益

アジア 売上:6,613百万円、セグメント利益:724百万円

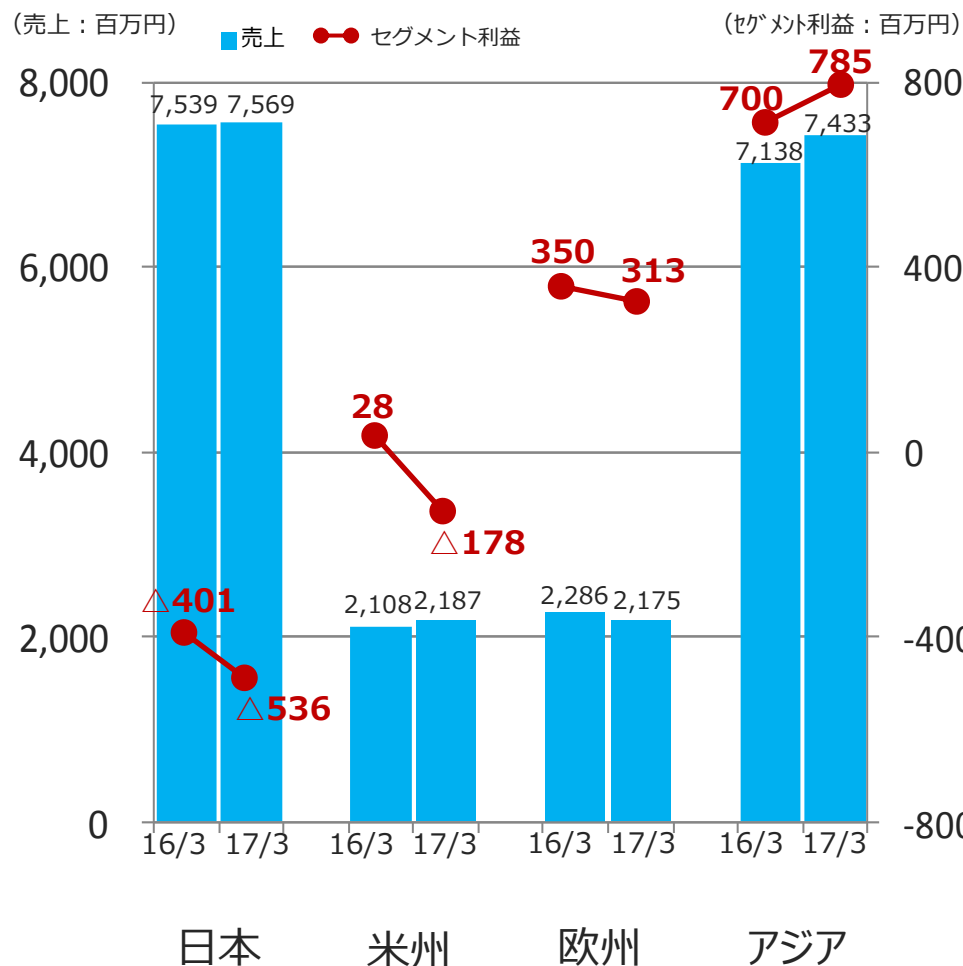
- ・円高の影響により減収となった一方、タイの収益が拡大したほか、中国の収益性改善の取組みが奏功したことで増益

(参考) 所在地別売上高・セグメント利益

17年3月期実績を前期のレートで換算（1US\$=120.2円）した場合

売上高・セグメント利益

前期からの変動要因



日本 売上:7,569百万円、セグメント利益:△536百万円

- ・OA機器向けが減少したものの自動車向けが好調に推移し増収した一方、埼玉工場の立上げにかかる固定費・経費の増加等により減益

米州 売上:2,187百万円、セグメント利益:△178百万円

- ・精密機器向けが好調に推移し増収となった一方、メキシコ第2工場・アメリカ第2工場の立上げにかかる固定費・経費の増加等により減益

欧州 売上:2,175百万円、セグメント利益:313百万円

- ・医療向けが減少したことなどにより減収減益

アジア 売上:7,433百万円、セグメント利益:785百万円

- ・自動車向けが好調に推移し、また、タイの収益が拡大したほか、中国の収益性改善の取組みが奏功したことで増収増益

1-5. 連結市場別売上高

(単位：百万円)

	16年3月期		17年3月期		増減	
	売上	構成比	売上	構成比	額	増減率
自動車(輸送機器)	6,984	36.6%	7,278	40.8%	294	4.2%
OA機器	4,186	21.9%	3,631	20.3%	△555	△13.3%
医療機器	1,794	9.4%	1,290	7.2%	△503	△28.5%
精密機器	1,183	6.2%	1,144	6.4%	△39	△3.3%
住設機器	910	4.8%	832	4.7%	△78	△8.6%
PC・周辺機器	634	3.3%	558	3.1%	△76	△12.0%
AV・家電	539	2.8%	537	3.0%	△2	△0.4%
航空機器	634	3.3%	519	2.9%	△115	△18.1%
携帯情報端末	509	2.7%	246	1.4%	△263	△51.7%
その他	1,700	8.9%	1,823	10.2%	123	7.2%
合計	19,073	100.0%	17,858	100.0%	△1,214	△6.4%

16年3月期レート： 1 US\$ = 120.2円

17年3月期レート： 1 US\$ = 109.2円

(参考) 連結市場別売上高

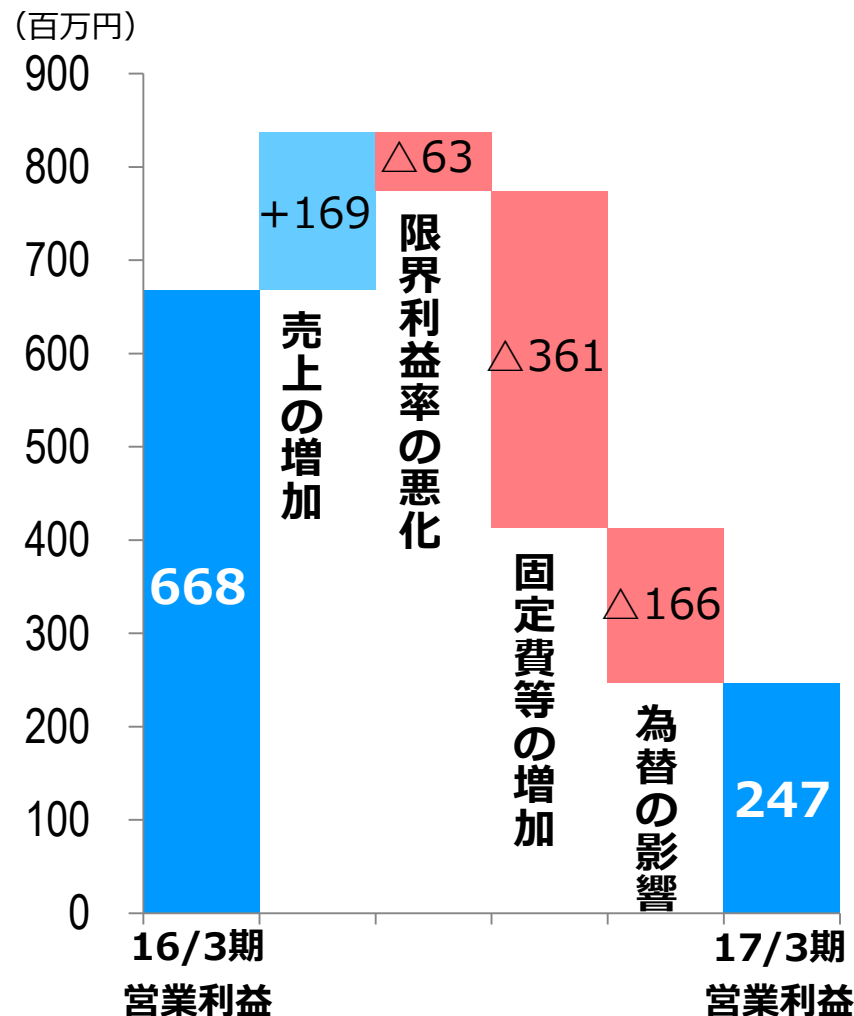
17年3月期実績を前期のレートで換算
(1US\$=120.2円) した場合

(単位：百万円)

	16年3月期		17年3月期		増減	
	売上	構成比	売上	構成比	額	増減率
自動車(輸送機器)	6,984	36.6%	7,812	40.4%	827	11.8%
OA機器	4,186	21.9%	3,842	19.9%	△344	△8.2%
医療機器	1,794	9.4%	1,506	7.8%	△287	△16.0%
精密機器	1,183	6.2%	1,231	6.4%	48	4.1%
住設機器	910	4.8%	890	4.6%	△21	△2.3%
PC・周辺機器	634	3.3%	582	3.0%	△52	△8.2%
AV・家電	539	2.8%	591	3.1%	52	9.7%
航空機器	634	3.3%	638	3.3%	4	0.6%
携帯情報端末	509	2.7%	255	1.3%	△254	△49.9%
その他	1,700	8.9%	1,980	10.2%	280	16.4%
合計	19,073	100.0%	19,327	100.0%	254	1.3%

1-6. 営業利益差異分析

営業利益差異



前期からの変動要因

前期に比べ営業利益は△421百万円だが、
為替と投資の影響を除けば増益

- 売上増による要因：+169百万円
- 限界利益率の悪化による要因：△63百万円
新工場のロスコストや、OA機器向け減少による
プロダクトミックスの悪化
- 固定費の増加による要因：△361百万円
埼玉工場、メキシコ第2工場など新工場開設に
より固定費・経費が増加
- 為替の影響：△166百万円
円高（ドル安・ポンド安）1US\$=¥120.2→¥109.2

2. 通期連結業績予想

2. 2018年3月期通期業績予想（連結）

（単位：百万円）

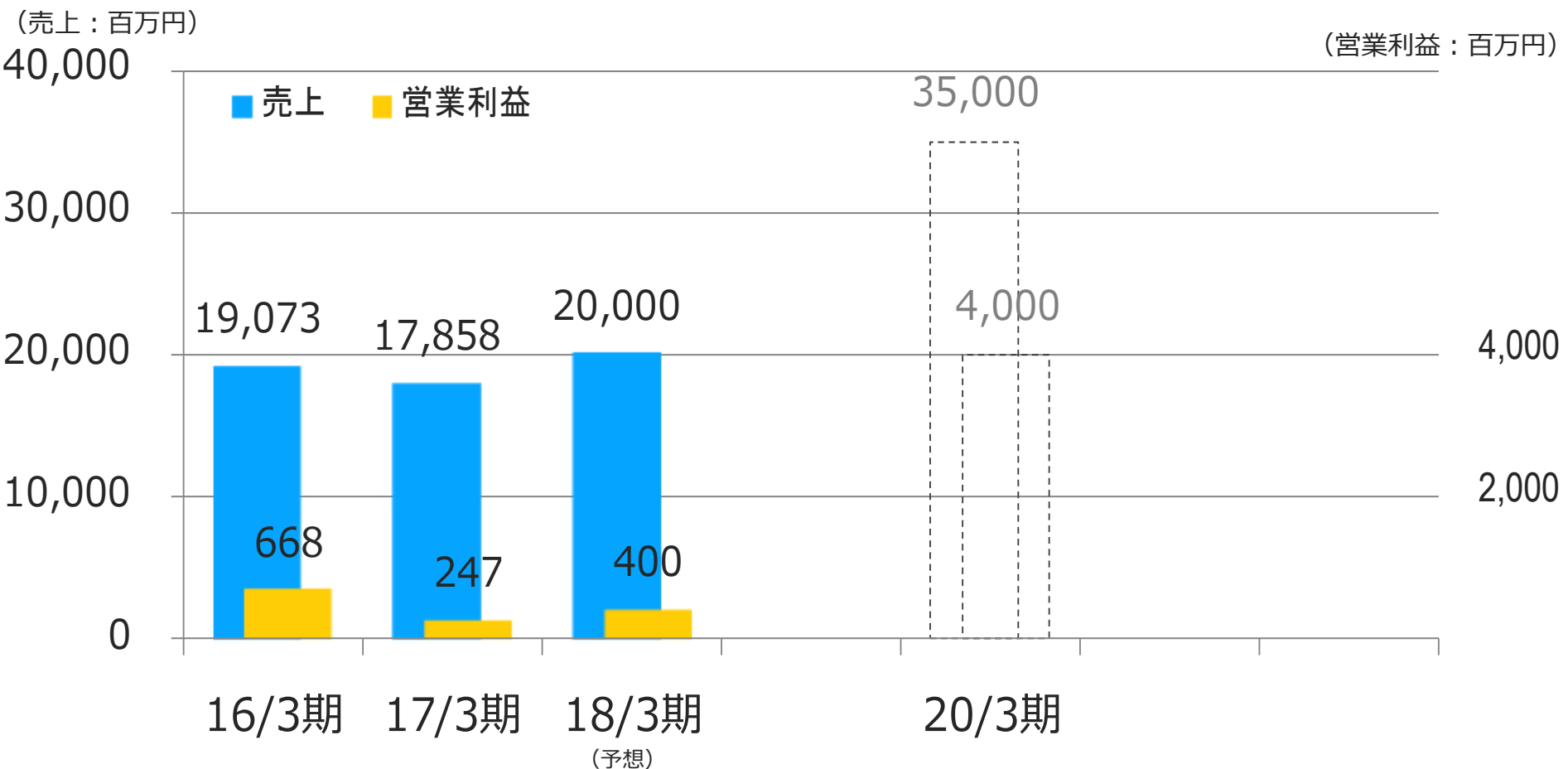
	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (予想)	通期増減	
			額	率
売上高	17,858	20,000	+2,142	+12.0%
営業利益	247	400	+154	+62.6%
営業利益率	1.4%	2.0%	-	-
経常利益	346	380	+34	+9.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	67	240	+173	+258.2%

注）為替レート的前提は1US\$100円としています。

3. 中期経営計画の目標年度見直し

3-1. 中期経営計画の目標年度見直し

数値目標（売上350億円、営業利益40億円）は変えずに目標年度を見直し
あと2年での達成は困難、現在精査中



- OA機器向け売上が計画比半減

(想定どおりであれば2017/3期は計画線以上)

- 新工場の進捗遅れ

(本格的な収益貢献は2021/3期以降)

- 円高

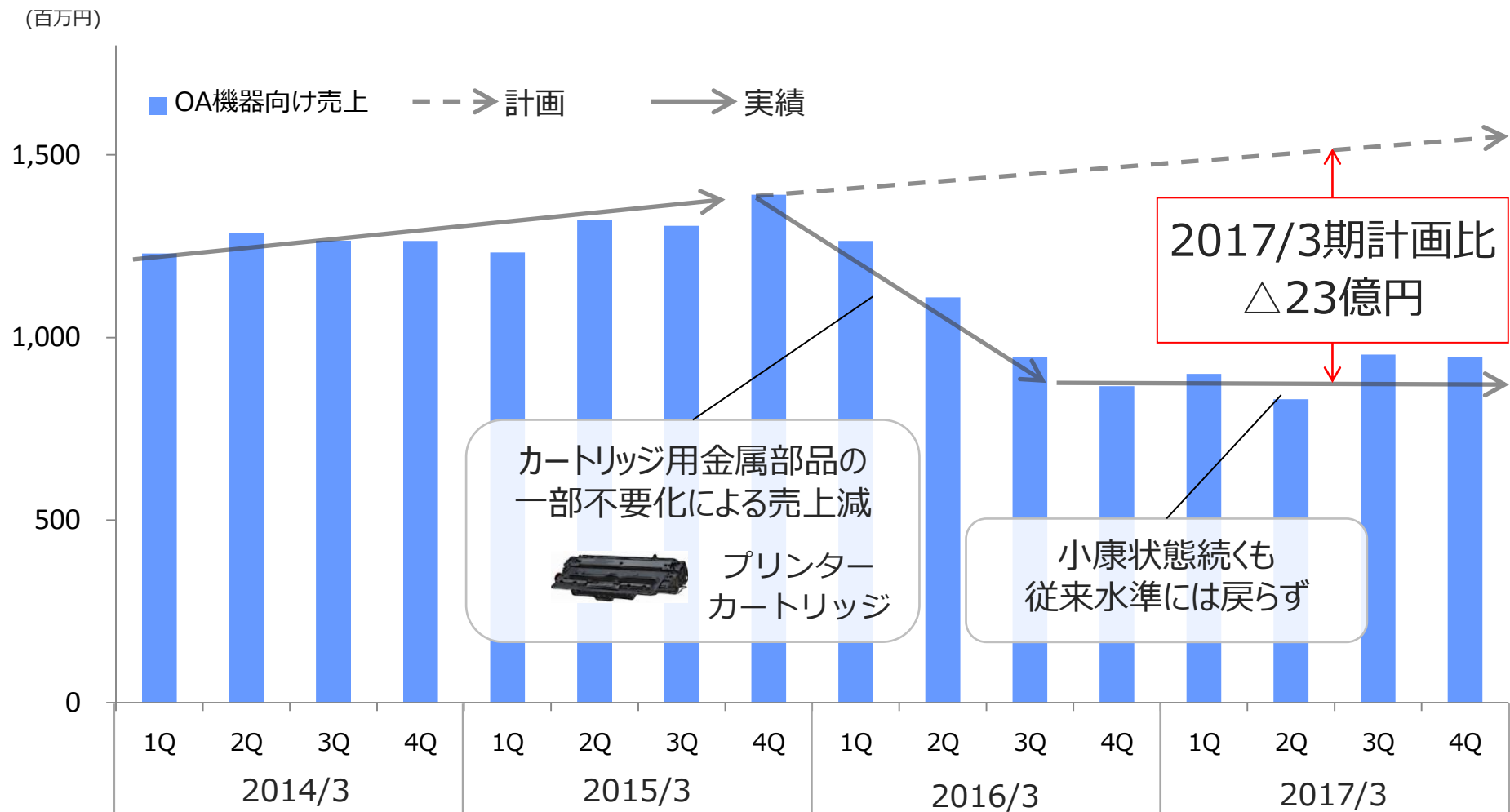
(中期経営計画の想定レートは1 US\$=¥120)

- 一方、先々の見通しは明るい

(自動車は実績・見通し共にほぼ計画通り。事業方針に変更無し)

3-2②. 目標年度見直しに至った要因

OA機器向け売上が計画を大きく下回る



3-2③. 目標年度見直しに至った要因

収益本格化の見通しを2021/3期以降に延伸
一方、引合いは多く将来見通しは明るい

埼玉工場

操業開始:2016年1月



現状	△	品質マネジメント認証刷新*による遅れ
将来	○	多少遅れあるも計画線上

メキシコ第2工場

操業開始: 2016年8月



現状	×	主要顧客向け移管遅れ
将来	◎	日系からの引き合い想定以上

千葉工場*

当社編入:2015年4月

*旧船橋電子(株)



現状	×	携帯向け終了で売上半減
将来	◎	自動車、精密引合い想定以上

インドネシア工場*

連結化 :2017年1月

*PT. Yamakou Indonesia



現状	○	黒字スタート
将来	○	自動車向け新規引合い増加

*取得を目指していたTS16949がIATF16949にバージョンアップしたことで、認定と量産が1年後ろ倒し

◎: 想定を大きく上回る、○: 想定通りor上回る、△: 下回る、×: 大きく下回る

4. 今後の事業方針

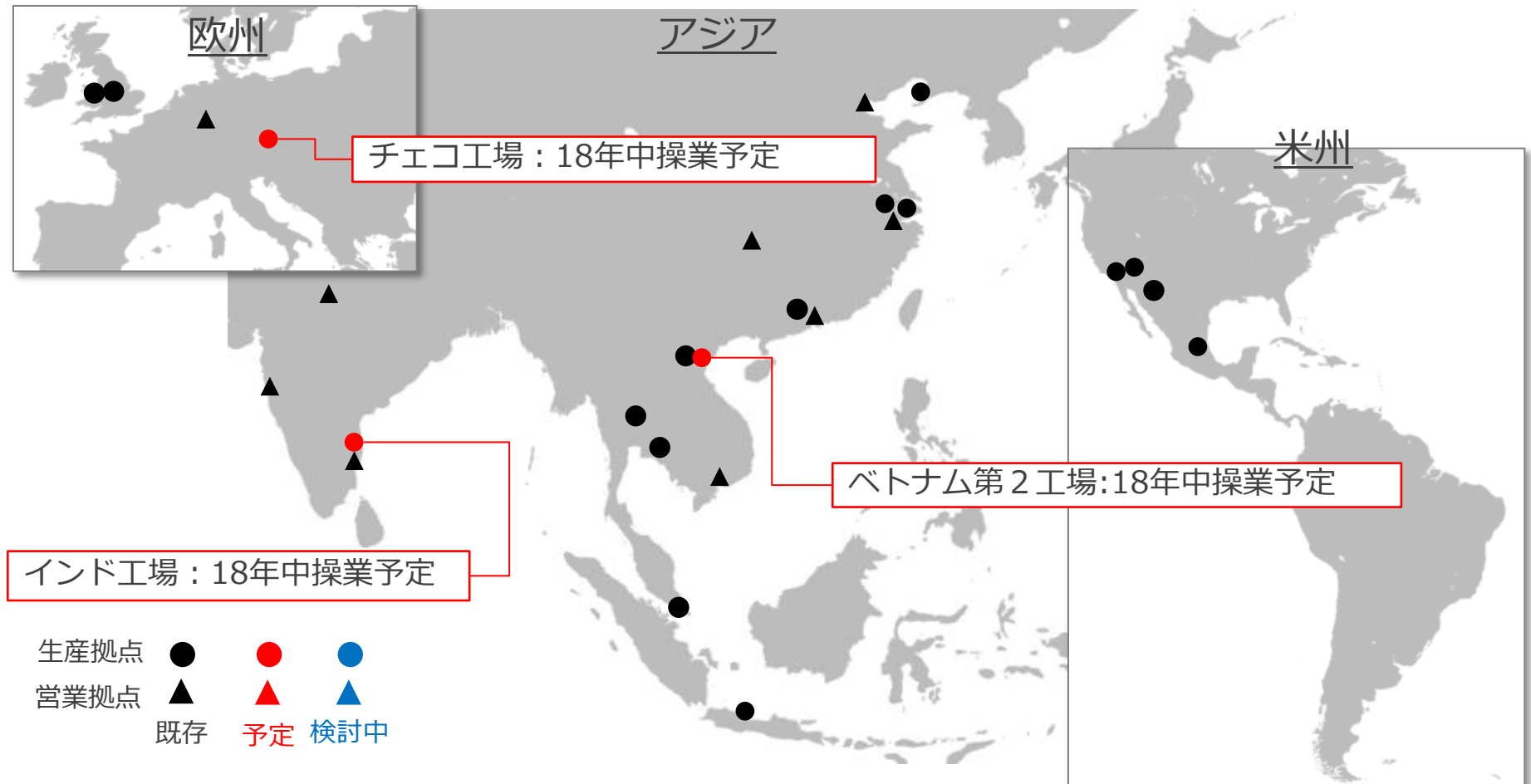
進捗は遅れるも方針・戦略に変更なし

- エリア戦略 : グローバルビジネスを拡大
- 市場戦略 : 自動車、医療、インフラに注力
- 製品戦略 : 規格品ビジネスを積極展開
- M&A : シナジーの見込める企業が狙い

4-2①. エリア・M&A戦略：進出地域アップデート ADVANCE

予定： チェコ工場、ベトナム第2工場、インド工場

検討： （当面無し）





ベトナム第2工場

操業開始：2018年予定

開設理由：キャパ拡大と、板ばねの導入

No image

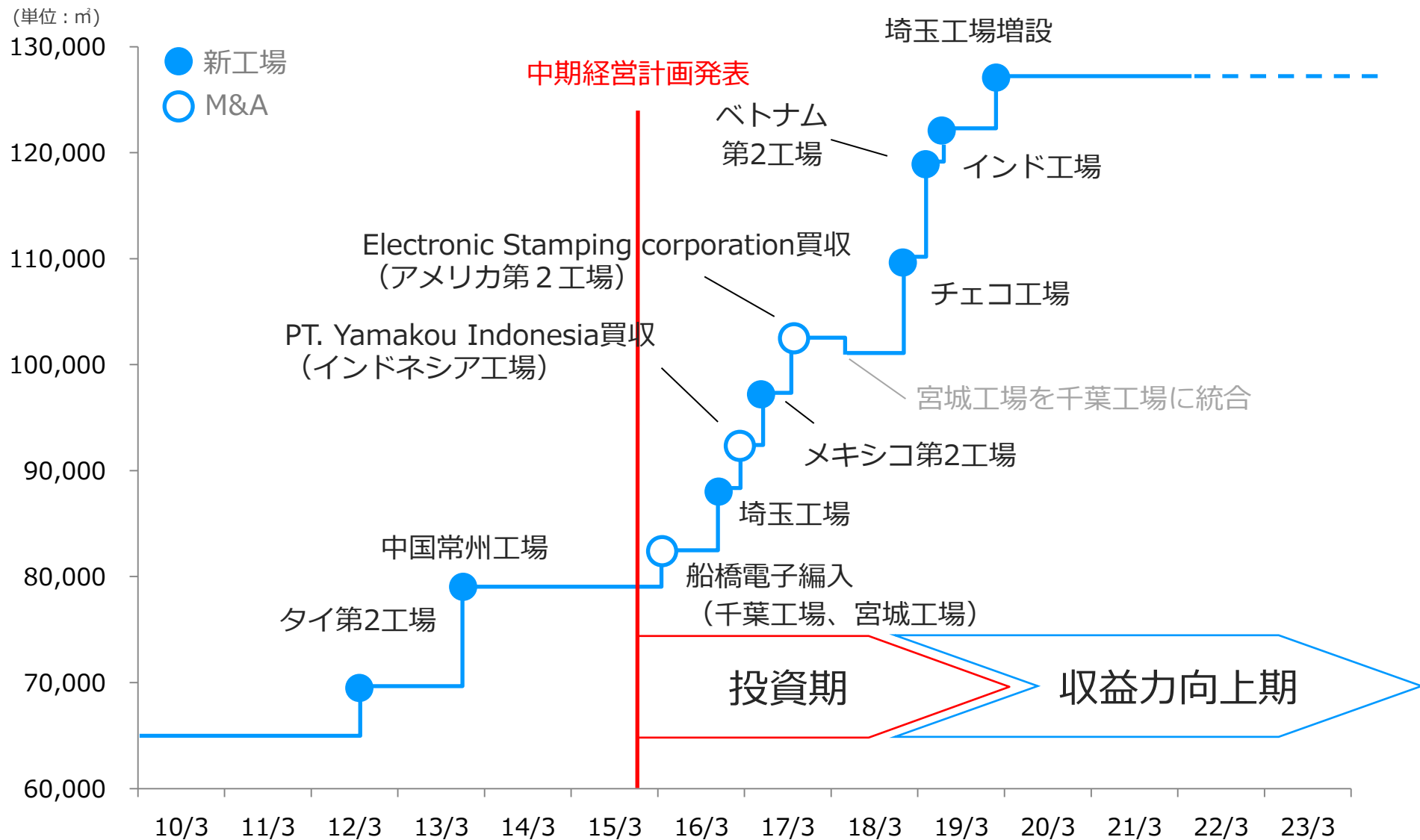
インド工場

操業開始：2018年予定

開設理由：輸入から現地生産への切替えと、
現地需要の取り込み

4-2③. エリア・M&A戦略：工場総面積推移

投資から収益力向上にシフト



- 多くのTier1が当社の利便性を認識
- 当社の様なグローバルTier2に集中する傾向
- 深絞り、インサートモールドは想定以上の引合い



自動車向け



インサートカラー



深絞り



インサートモールド



押しばね



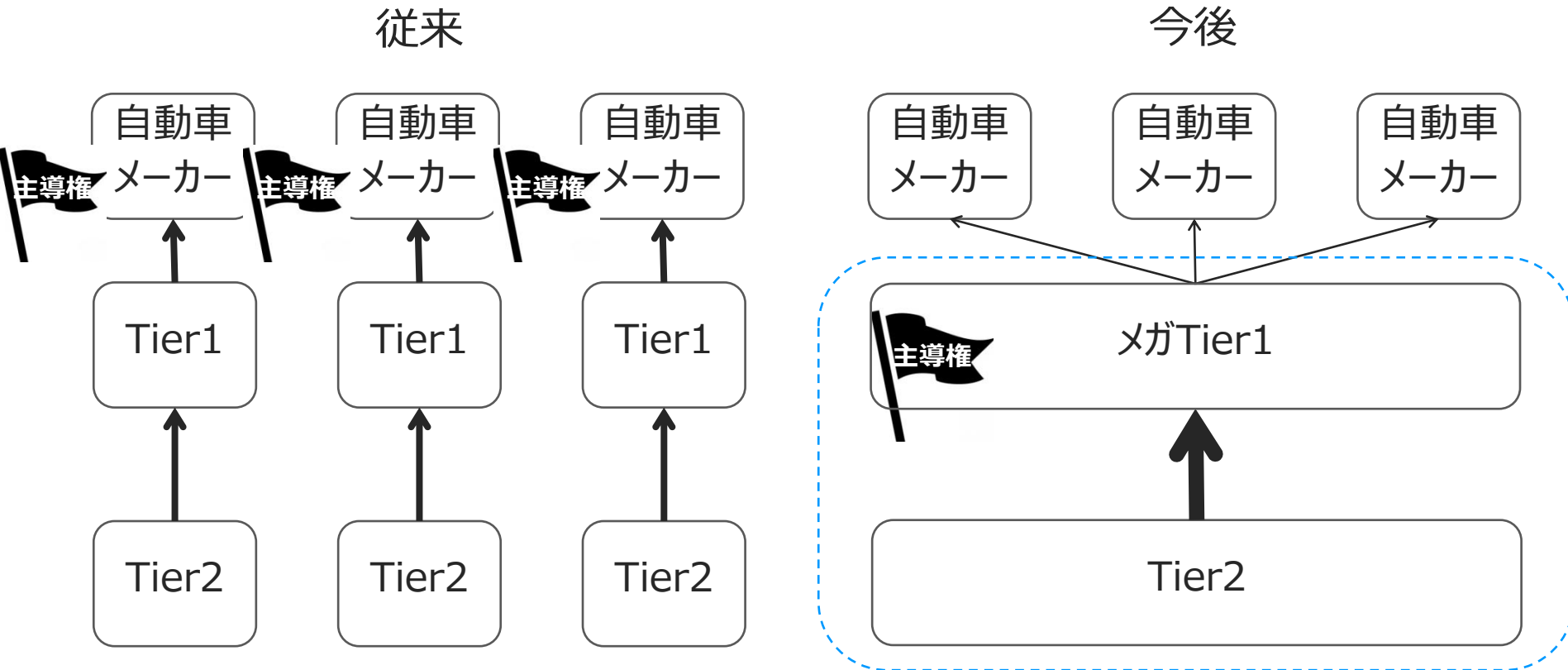
トーションばね



板ばね

4-3②. 自動車市場：サプライチェーンの変化

Tier1のメガサプライヤー化によりTier2への要求も増大



Tier2への要求

- グローバル供給体制
- 財務力、経営の持続性
- 開発力、対応力、提案力

4-3③. 自動車市場：グローバルTier2の強み

R&Dで決めた仕様・品質を世界各地から供給
自動車部品共通化のトレンドに対応

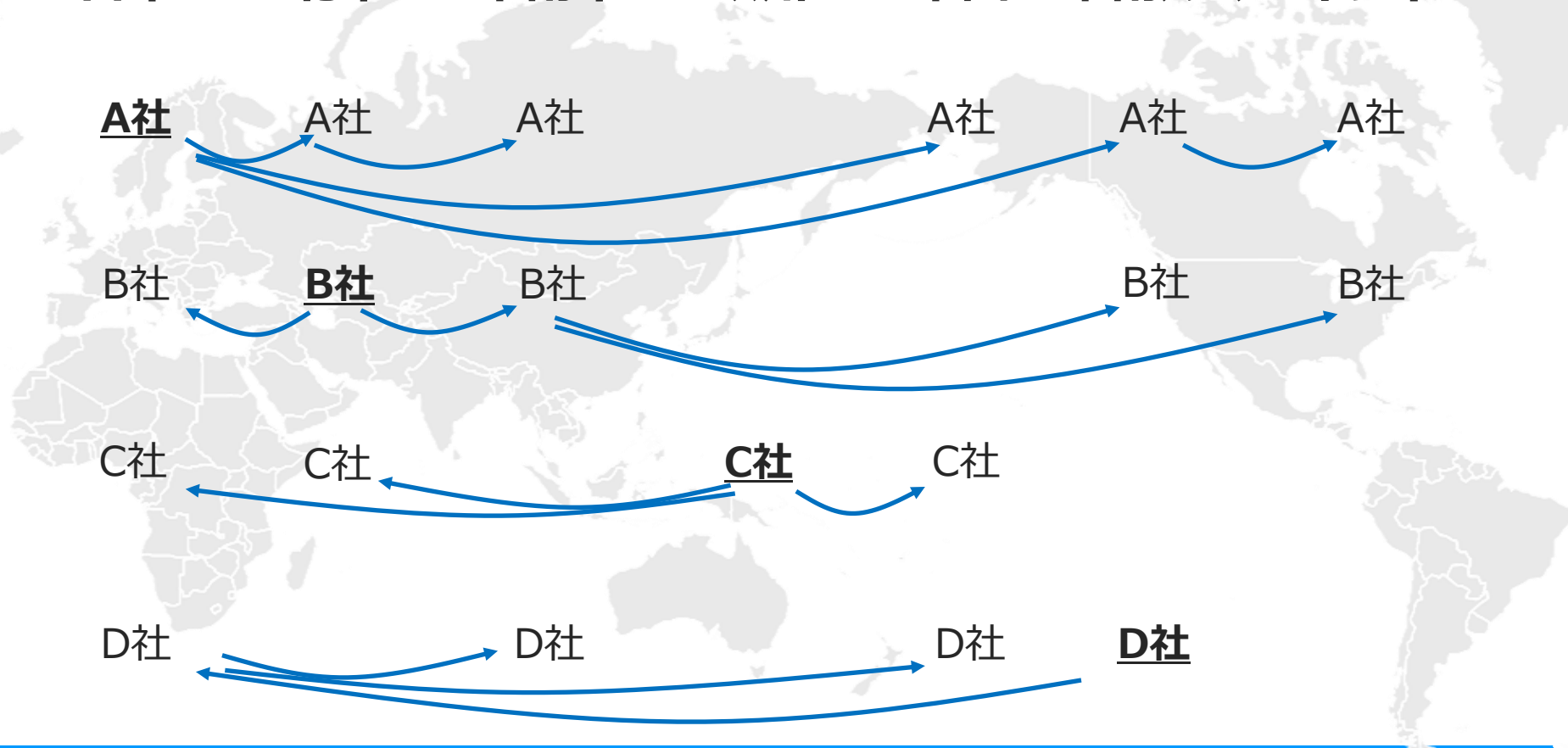


4-3④. 自動車市場：新規顧客の横展開

「グループ内ツテ」による横展開
モジュール化・共通化のトレンドも後押し

連鎖的横展開の事例

日本 北米 中南米 欧州 中国 東南アジア インド



4-3⑤. 自動車市場：加工技術

取引顧客増加に伴い要求される加工技術も増加

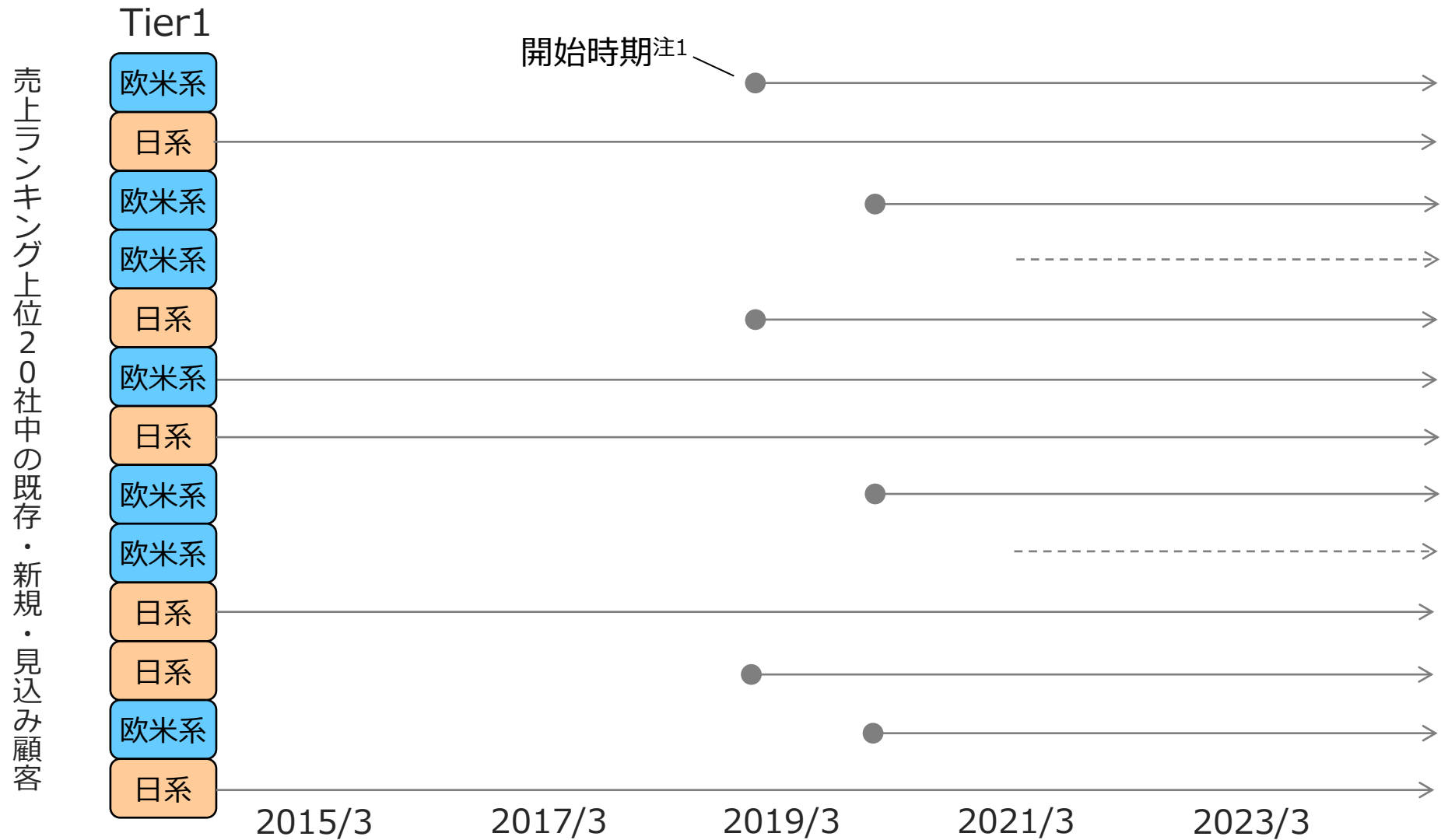
当社エリア別導入加工技術

		日本	北米	中南米	欧州	中国	東南 アジア	インド
	線ばね	●	●	●	●	●	●	●
	板ばね	●	●	●	●	●	●	●
	インサート モールド	●		●		●	●	
	深絞り	●			●			

● 新規導入
● 既存

4-3⑥. 自動車市場：売上ランク上位との取引 ADVANCE

欧米系Tier1を中心に新規取引準備



注1：複数拠点からのグローバル供給が開始する時期
P58の「自動車向け拡大のイメージ」もご参照ください

4-3⑦. 自動車市場：深絞り、インサートモールド

インサートモールド、深絞りの引合いは想定以上、EV向けも

参入製品

発展製品

自動車



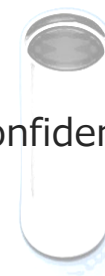
自動車センサー用
インサートモールド



自動車センサー用
深絞り



EV・HEV用
インサートモールド



EV・HEV用
深絞り

家電・精密



インサートモールド



深絞り



家電・精密向け
インサートモールド

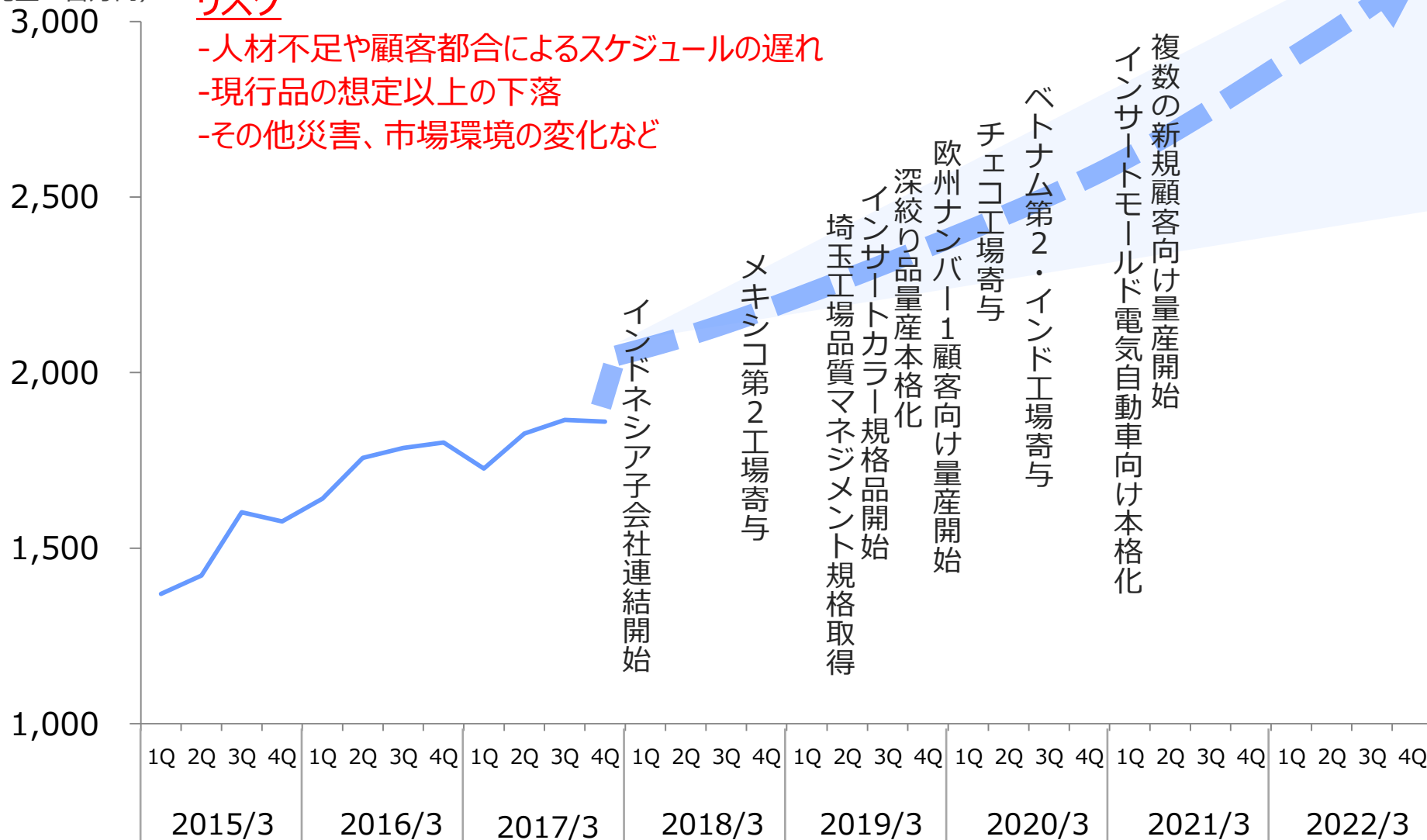


家電・精密向け
深絞り

4-3⑧. 自動車市場：イベントと売上見通し

成長ドライバーは2019/3期以降に集中

(売上：百万円)



- 先進国の高齢化、新興国の富裕化でマーケット規模が拡大
- セルフメディケーションが普及
- 医療でもグローバル体制は有利



医療向け



トーションばね



押しばね



薄板長巻ばね

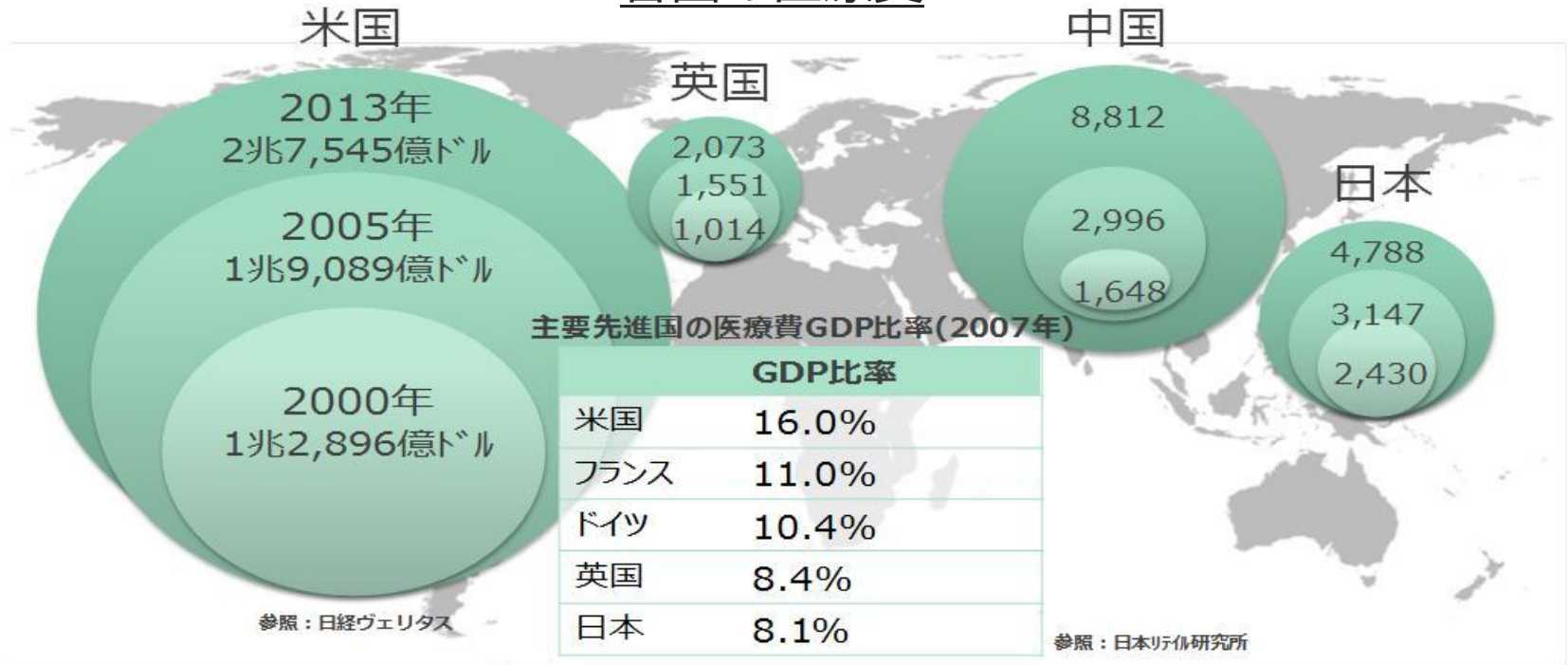
4-4②. 医療市場：各国の医療費

医療費増大の対策として“セルフメディケーション”が注目されている

“セルフメディケーション”とは？ WHO(世界保健機関)より

「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」

各国の医療費



4-4③. 医療市場：主力製品と拡大の背景

当社ばね採用のセルフメディケーションキット
喘息吸入キットは倍増へ、インスリン注射キットは2021年量産開始



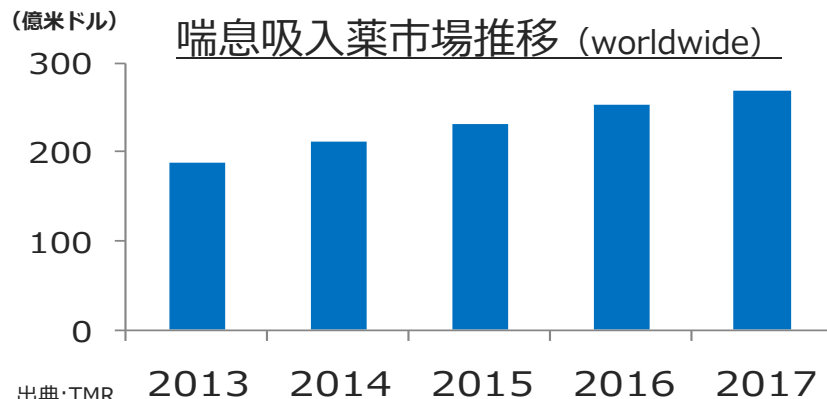
喘息吸入薬キット 当社供給ばね(類似品)

ぜんそく患者が世界で急増、2億人超えた WHOが地球温暖化の影響を指摘

■二酸化炭素の濃度上がれば花粉量も増加

報告書によると、欧州のほとんどの場所では10～20年前と比べて草木の成長時期が早まったうえ、生育期間も長期化しているという。さらに大気中の花粉量も増加。土地の使い方が時代とともに変わり、気温や二酸化炭素の濃度も変化したことが理由とみられるが、各要素がどのように作用し合って花粉量に影響を及ぼしたかは明確になっていない。だが実験レベルでは、二酸化炭素の濃度が2倍になると、ブタクサの花粉量が6割増になったとしている。

「J-cast ニュース」から抜粋

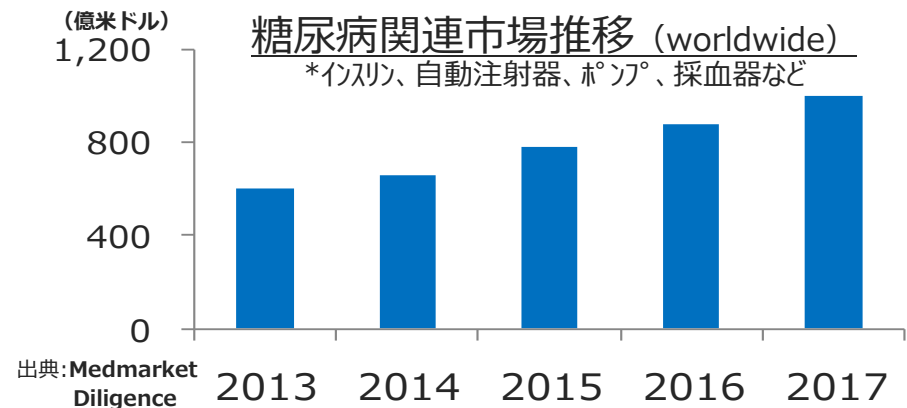


インスリン注射キット 当社供給ばね・深絞り(類似品)

■世界の糖尿病人口は4億人を突破

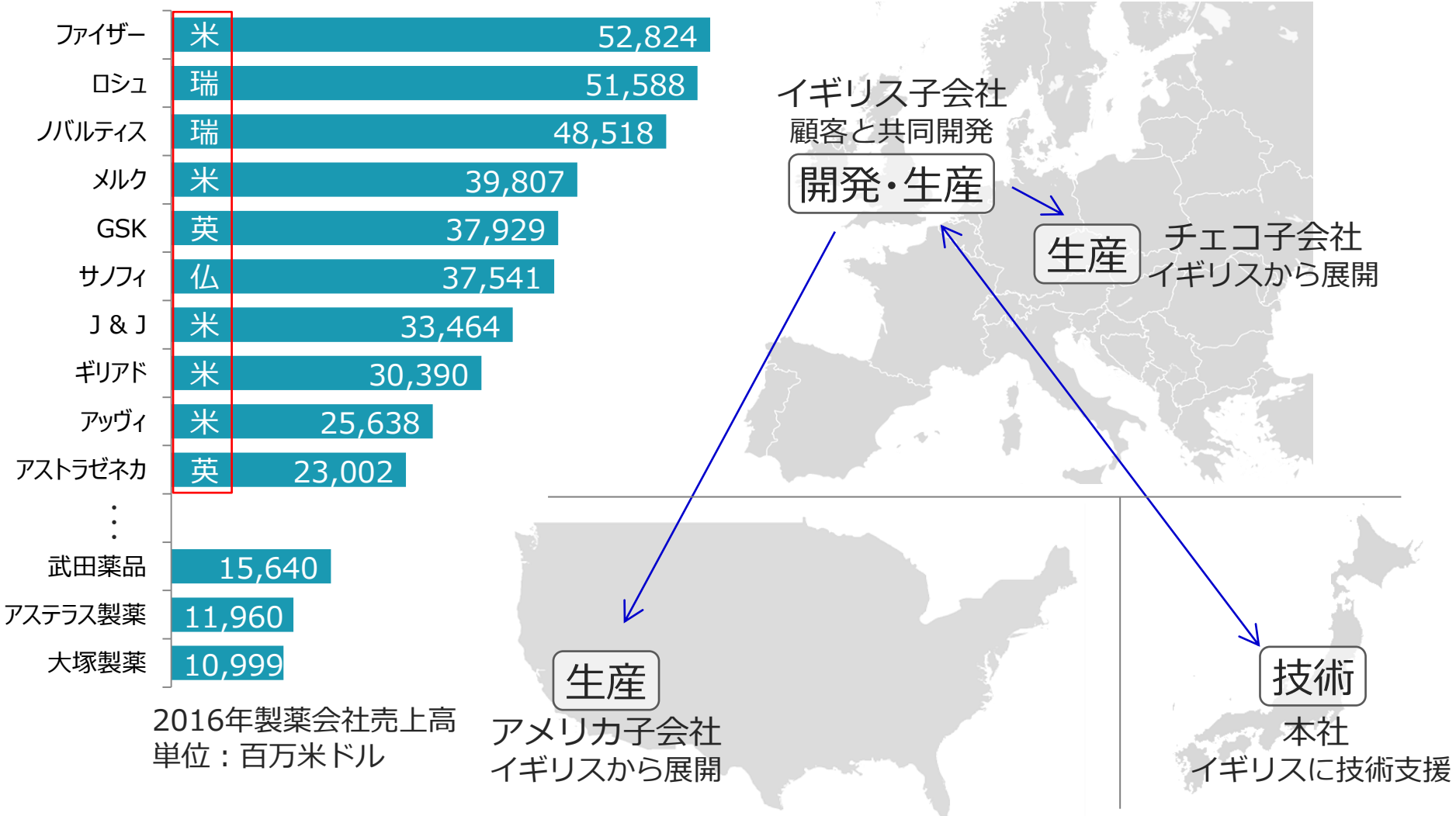
国際糖尿病連合(IDF)の発表によると、世界の糖尿病人口は爆発的に増え続けており、2015年現在で糖尿病有病者数は4億1,500万人に上り、昨年より2,830万人増えた。有効な対策を施さないと、2040年までに6億4,200万人に増加すると予測している。

「糖尿病ネットワーク」から抜粋



4-4④. 医療市場：ネットワーク

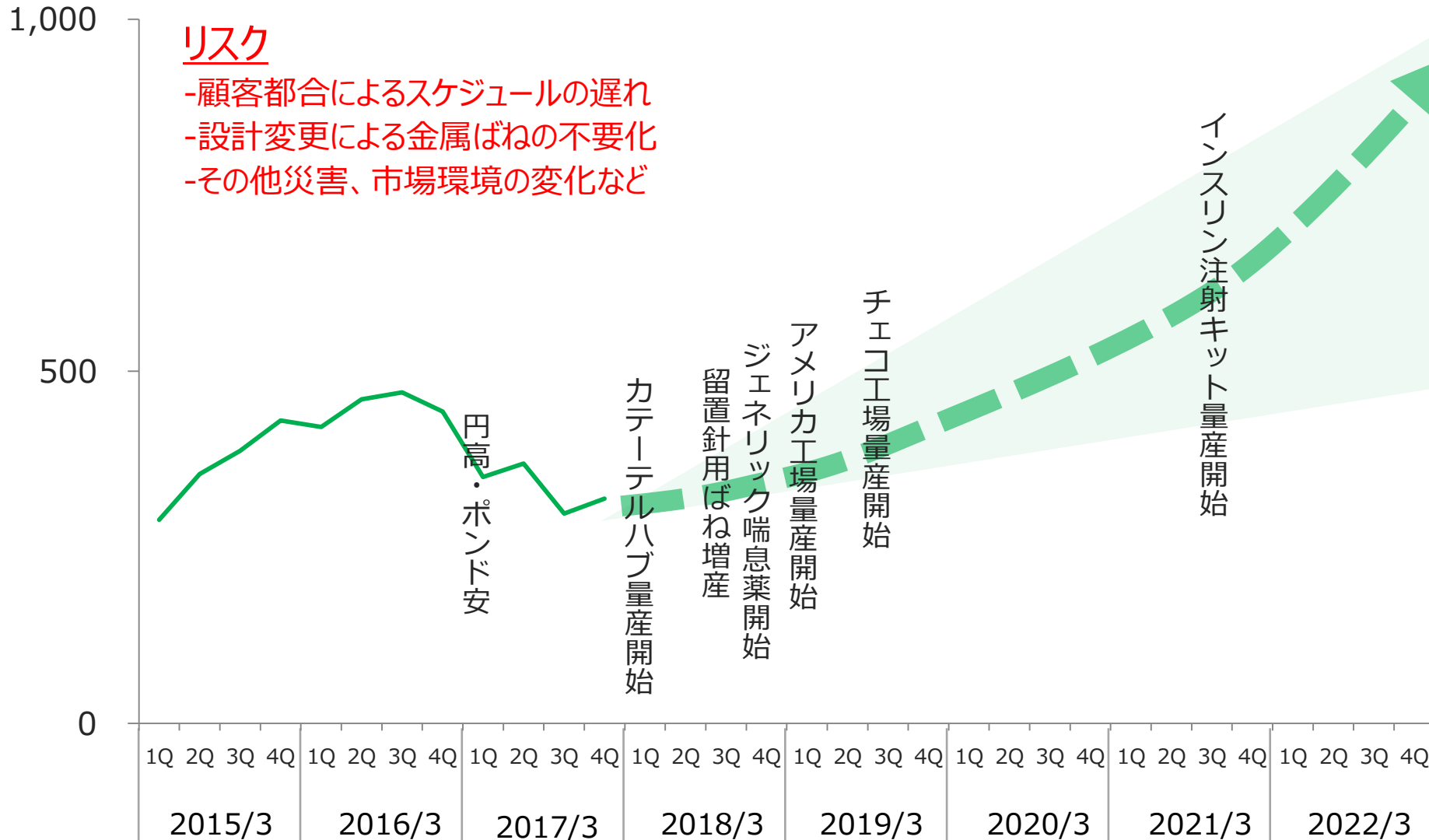
先進医薬のR&D・生産拠点は欧米
日本の技術を下支えに欧米で展開



日本は新薬の申請から承認まで平均4.7年（2007年データ）と欧米の3倍以上で、
先進医薬の開発拠点としては不利

ブレイクスルーはインスリン注射キット開始の2021年ごろ

(売上：百万円)



4-5. 規格品

軽量化ニーズにより拡大

ラインナップを拡充し世界へ



タングレス・インサート



ロックワン



航空機



高速鉄道



ロボット

ターゲット市場

- グローバルでの販売網強化
- エントリーキットの販売
- CFRP・アルミ化の軽量化需要

作業性

簡易性

認証規格

販売戦略

強み



鉄道



インフラ



住設

- 海外子会社販売開始
- ラインナップ拡充
- 各業界でのお墨付き

締結力

視認性

作業性

他社製と比べ作業が簡易でスピードが速い。米国航空規格の認証取得

他社製と比べ締結力が強い。効果持続が視認でき、作業性も良い

詳細はP59～63の参考資料をご参照ください

4-6. 深絞り

プローブ（導通テスター）用深絞り
QCDで圧倒し、独占メーカーから転注

ターゲット



参入数多

切削等

高コスト



現独占メーカーから
当社に転注

1社独占（某米国企業）

超深絞り(Φ0.3~1.5)

低コスト



参入数多

深絞り

低コスト

細い

外径 (単位0.1mm)

太い



市場背景



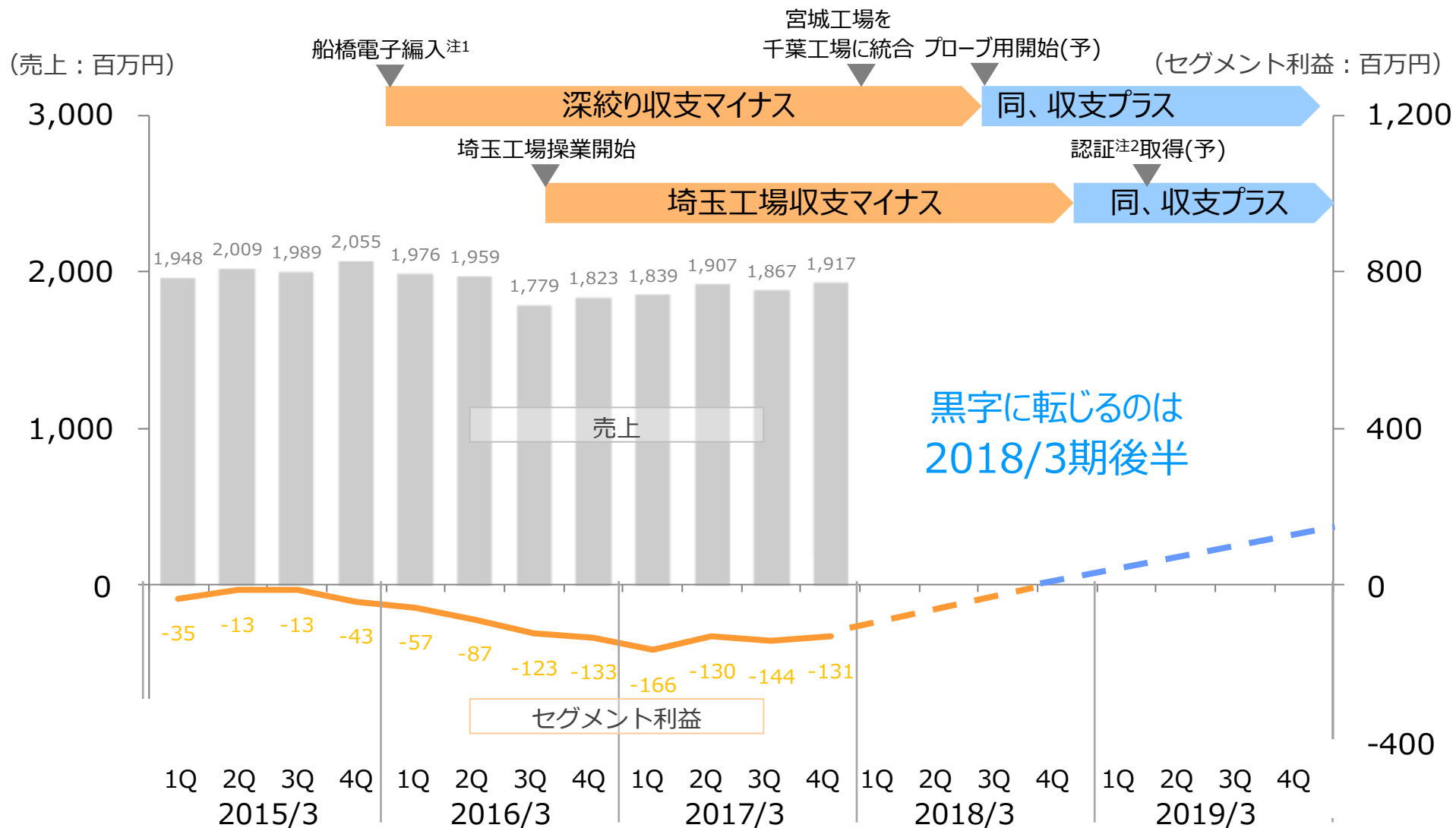
製品の高性能化により
基板ピッチが狭小化



超深絞りが可能な
メーカーに注文集中

4-7. 日本の業績見通し

埼玉工場と深絞りの本格化後、黒字化する見通し



注1 船橋電子(株)の千葉工場、宮城工場を当社に編入。2017年3月に宮城工場を千葉工場に統合

注2 自動車部品品質マネジメント規格IATF16949の取得後、それを待っていた製品の量産がスタートする予定

ADVANCEX

(お問い合わせ先)

株式会社アドバネクス
総務部広報IR課

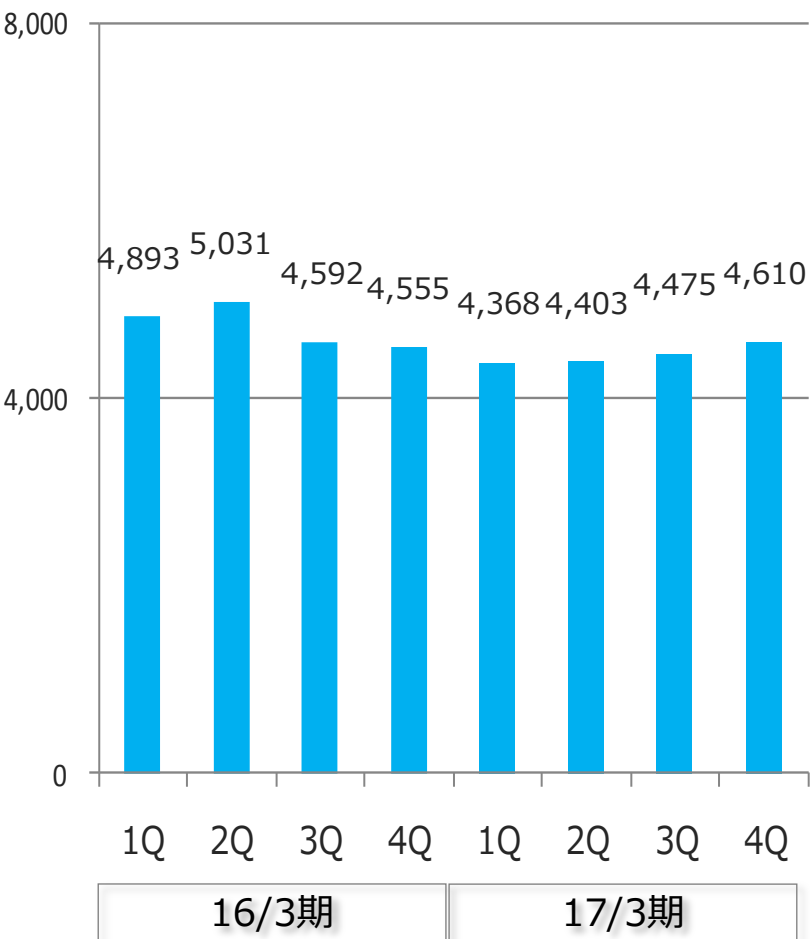
TEL : 03 - 3822 - 5865

Email : tsutomu_kumaki@advanex.co.jp

URL : <http://www.advanex.co.jp>

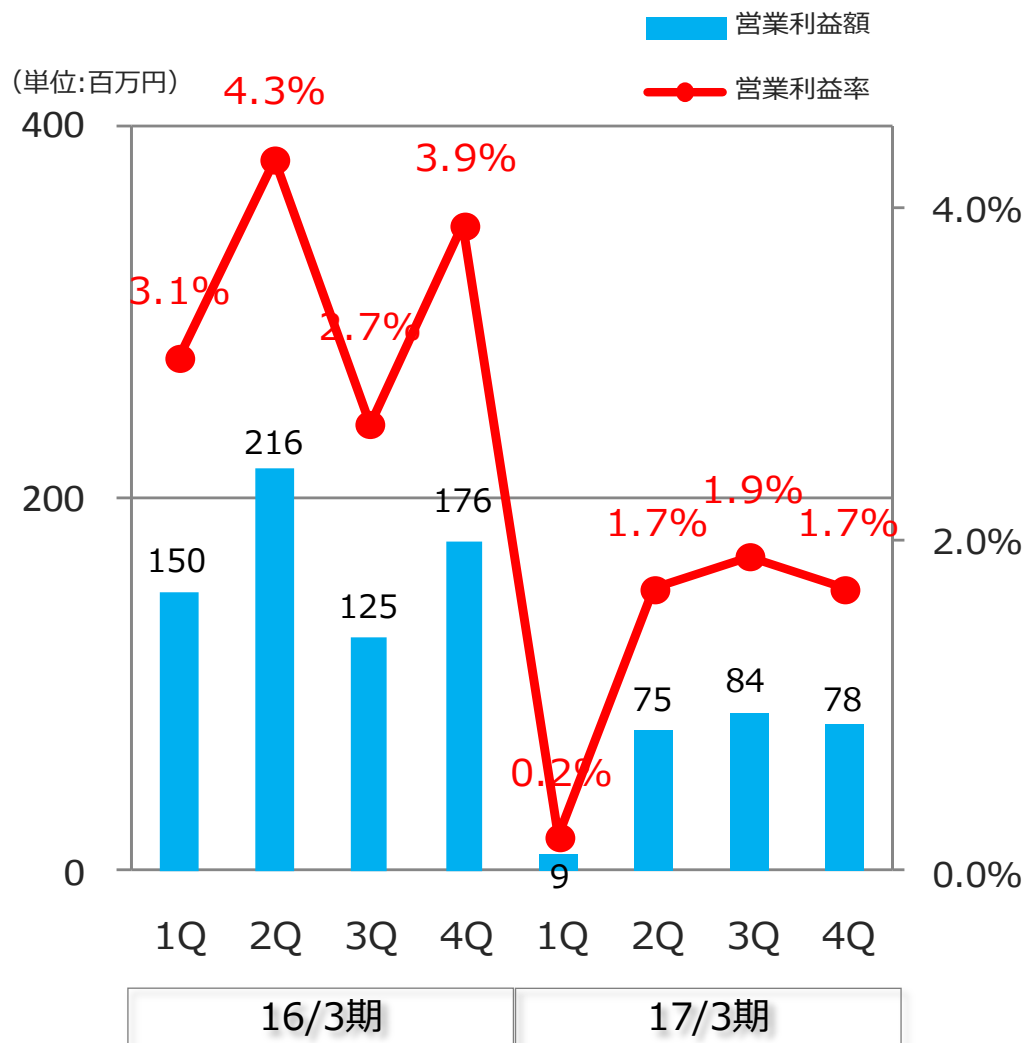
売上高

(単位:百万円)



営業利益/営業利益率

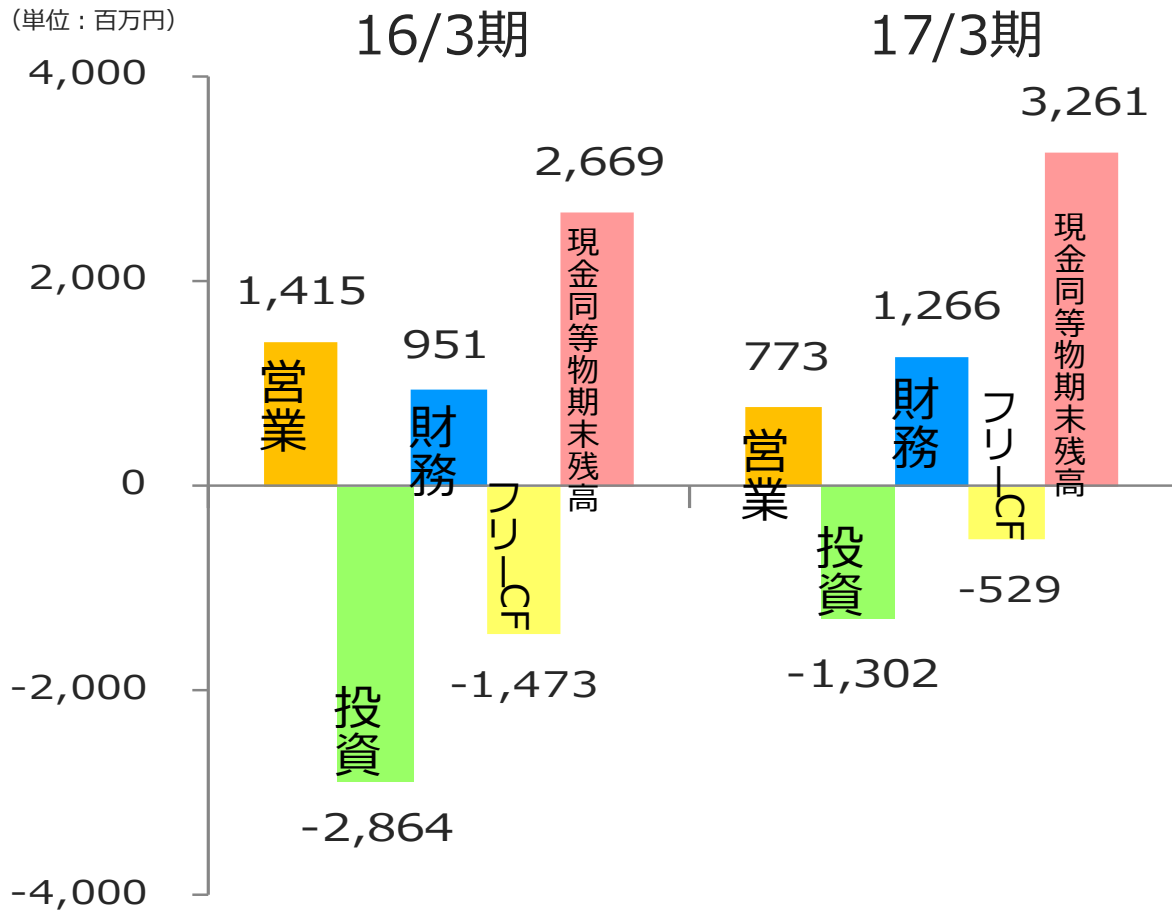
(単位:百万円)



キャッシュフロー推移

前期からの変動要因

(単位：百万円)



営業活動によるCF

減価償却費による資金留保等により
資金が**773百万円増加**

投資活動によるCF

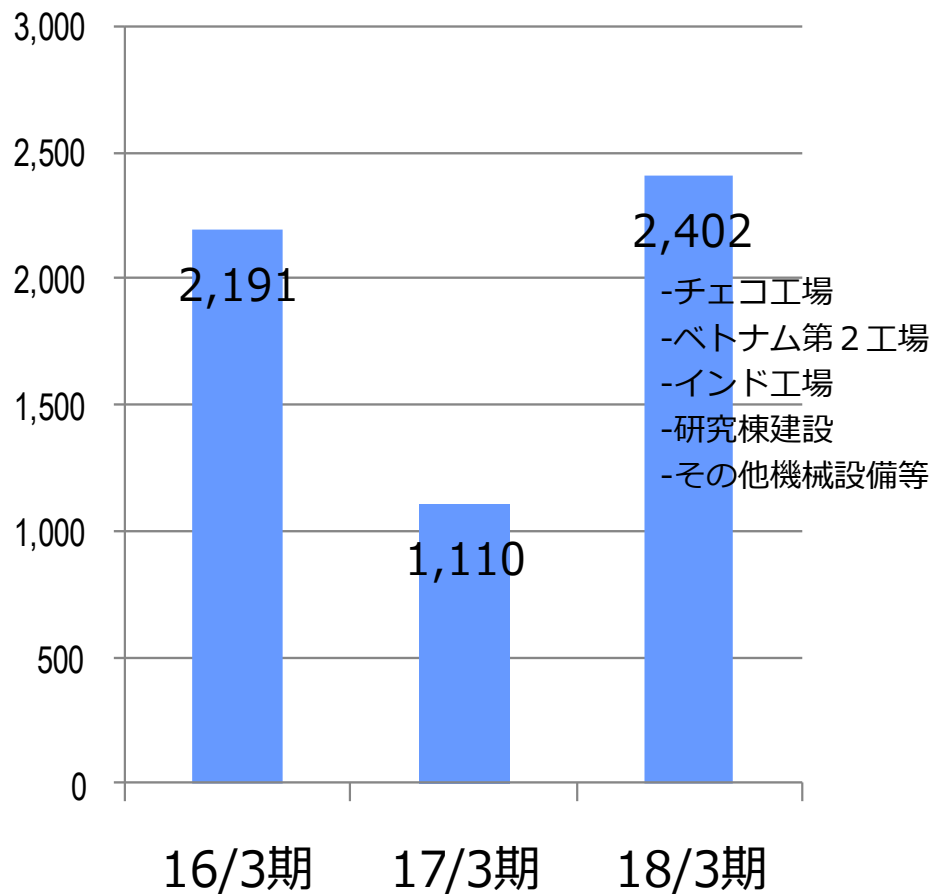
埼玉工場やメキシコ第2工場の
設備投資などにより
1,302百万円減少

財務活動によるCF

配当金支出の一方、
銀行からの借入れ等により資金が
1,266百万円増加

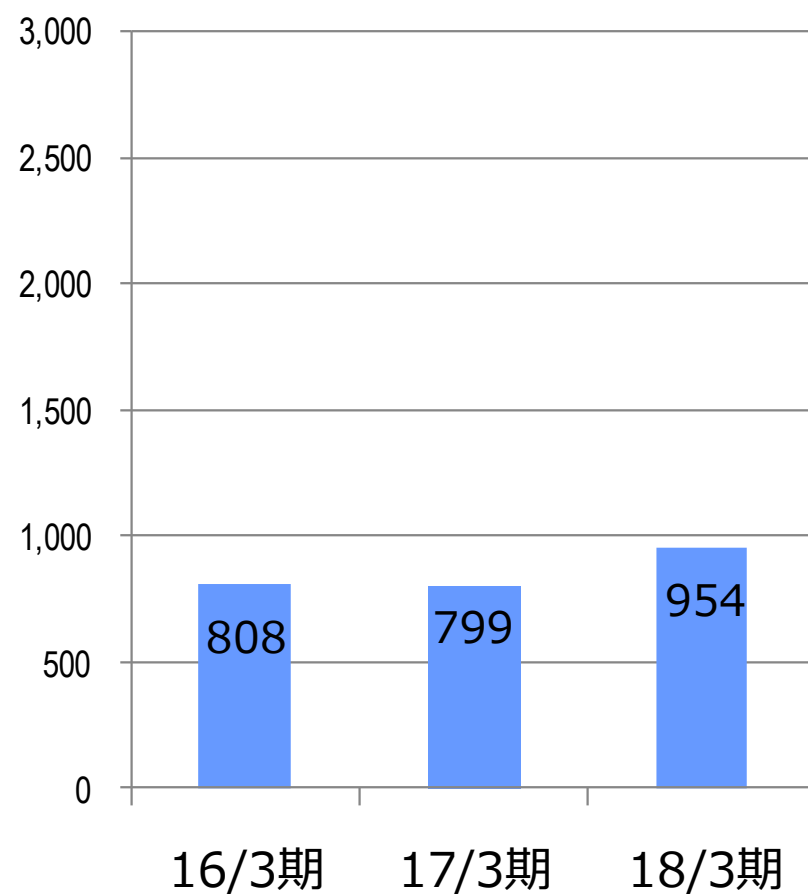
設備投資

(単位：百万円)



減価償却

(単位：百万円)



〔社名〕

株式会社アドバネクス

(東証一部)

〔設立〕

1946年11月



〔事業内容〕 精密ばね製品等の製造・販売

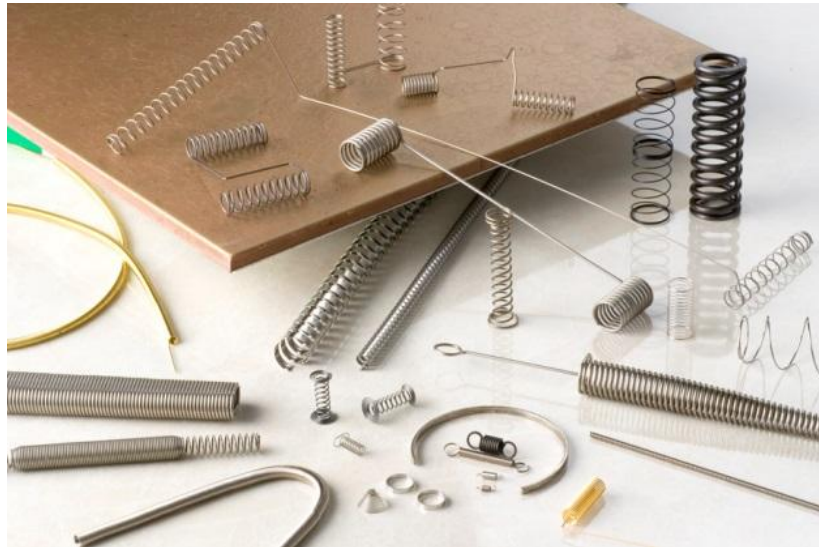
〔従業員数〕 1,914名 (連結)

358名 (単体) * 2017年3月末時点

〔連結対象子会社〕 12社 (国内1社、海外11社) * 2017年1月末時点

〔売上〕 178億円 * 2017年3月期

板ばね



線ばね

フォーミング加工



タングレス・インサート

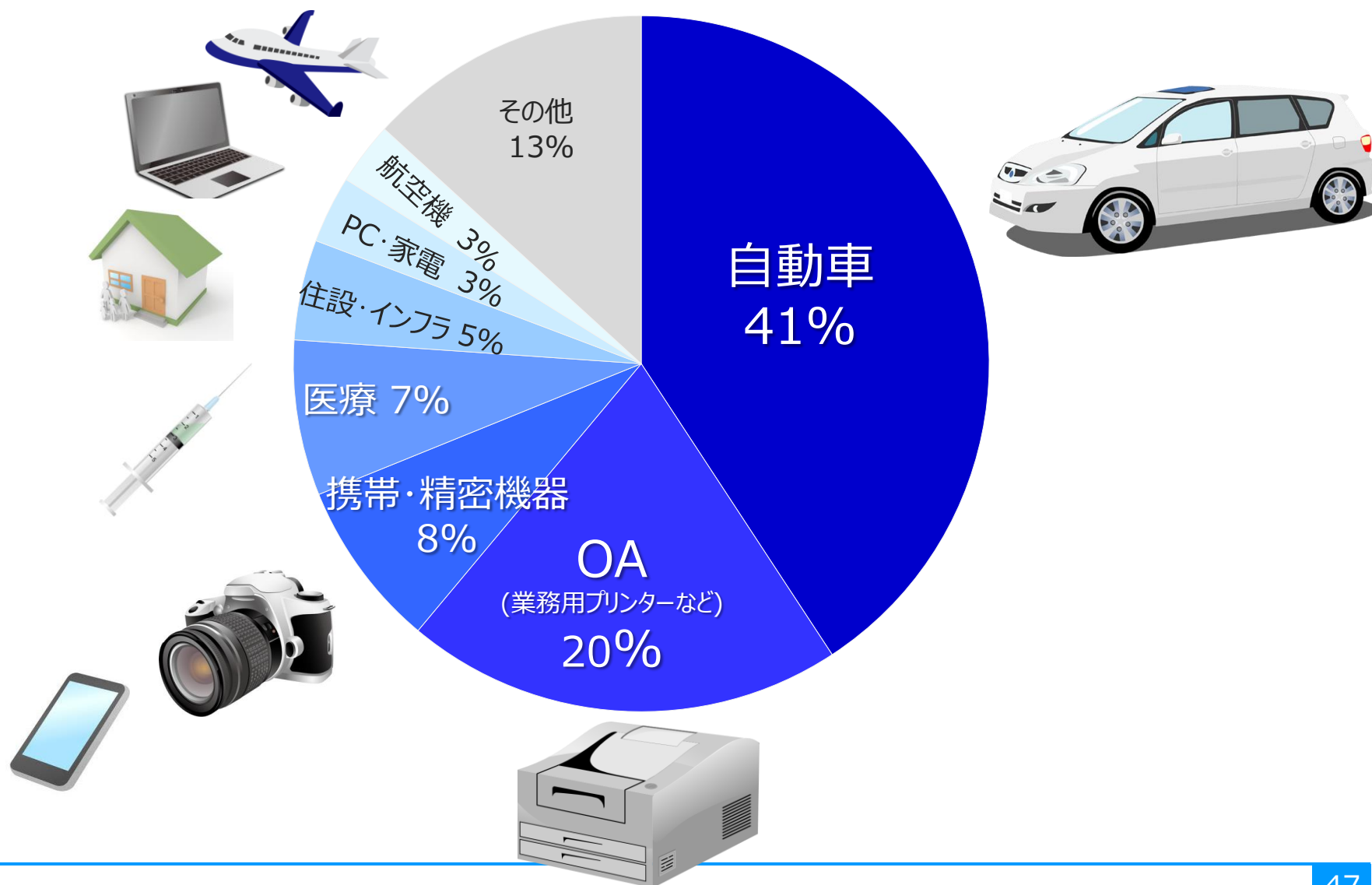


インサートカラー



ロックワッ

2017年3月期売上178億円の内訳



各業界のトップ企業が主要顧客

取引社数： 約2,000社
製品種類： 約15,000種

自動車

デンソー
ボッシュ
ケーヒン
パナソニック
日立AMS
他

OA

キヤノン
レックスマーク
HP
他

医療

製薬海外大手
メディキット
オリンパス
HOYA
他

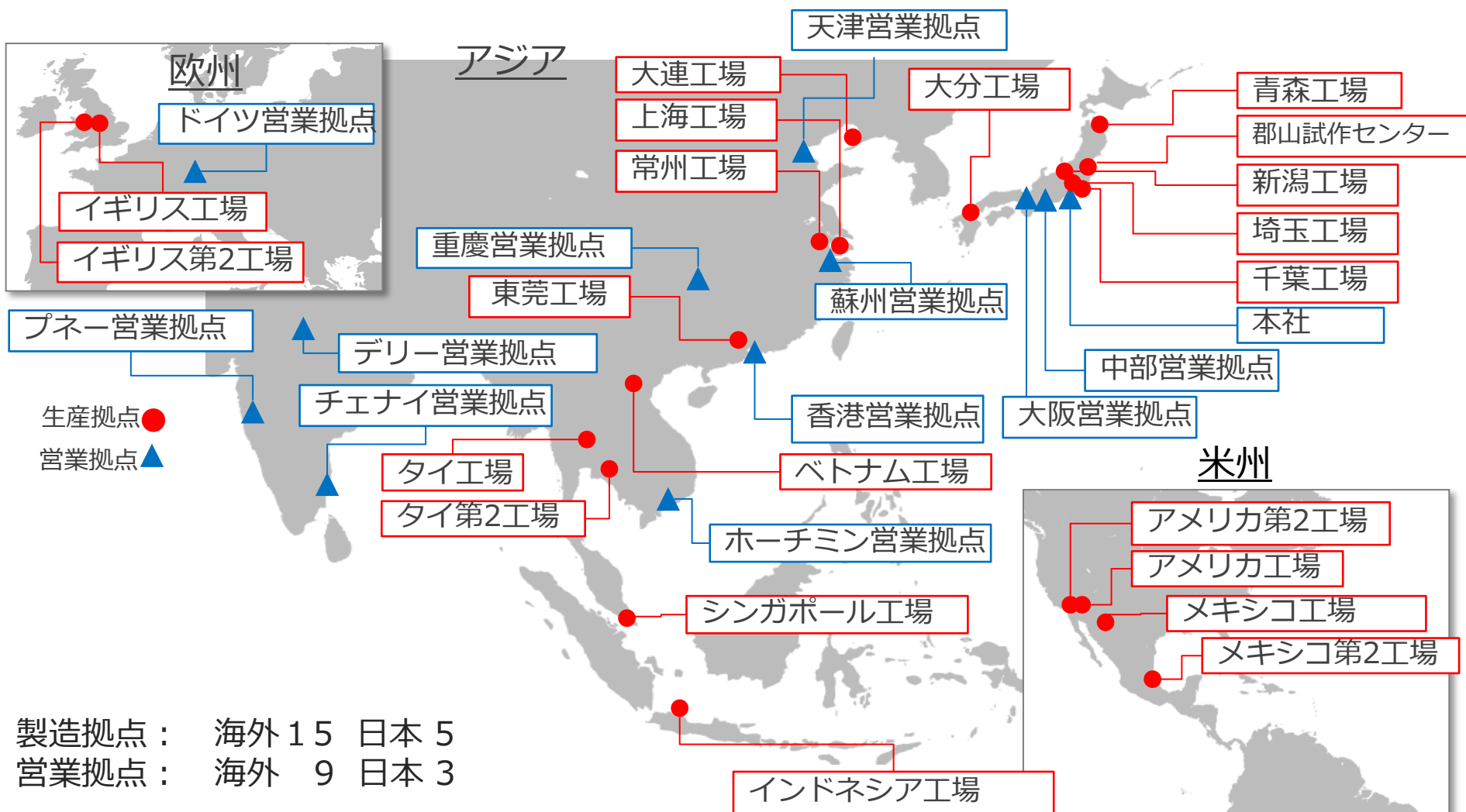
精密 他

キヤノン
ソニー
パナソニック
富士フイルム
他



(参考資料) 国内外拠点

精密ばねメーカーでは最多の海外拠点数

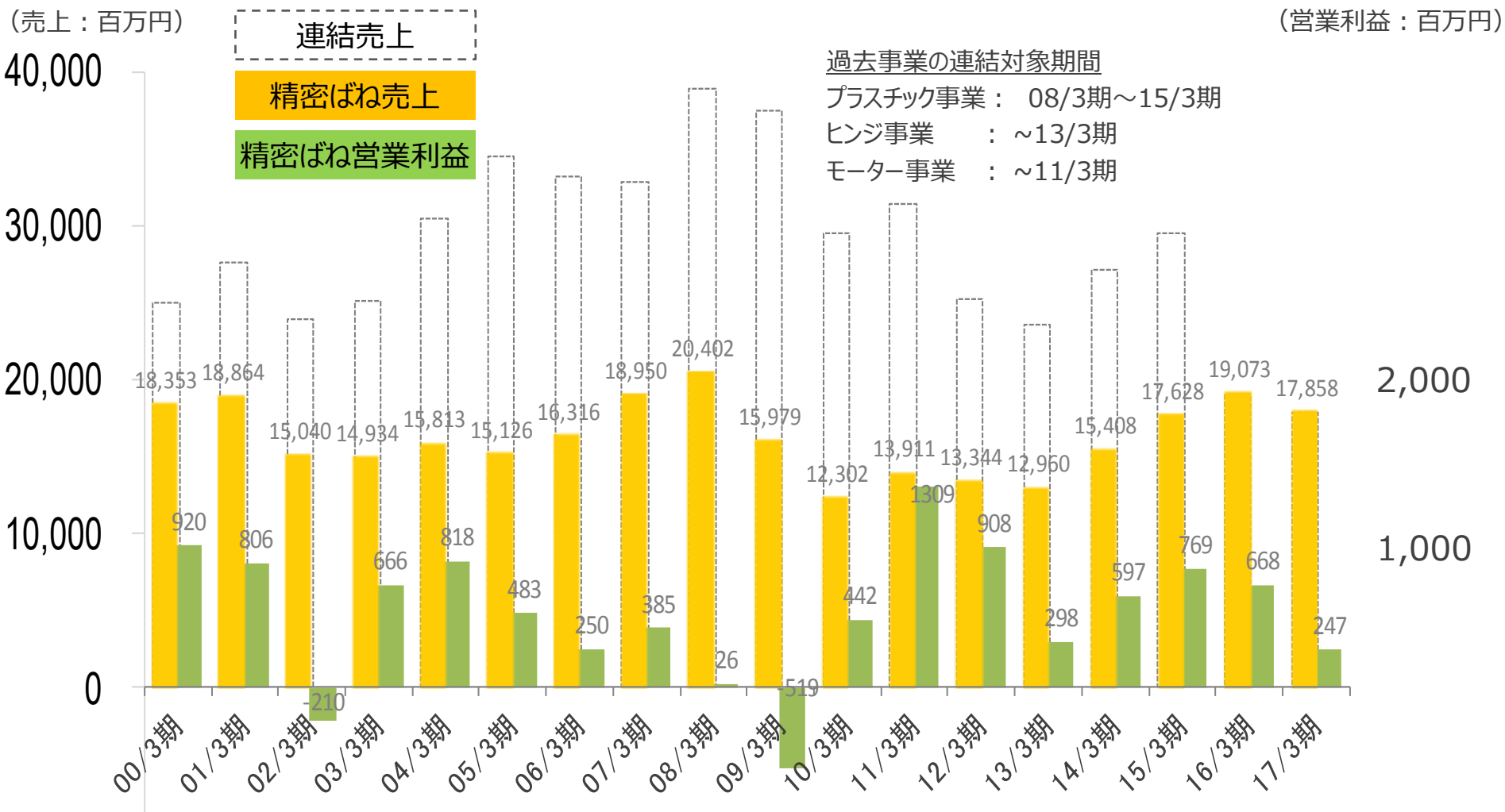


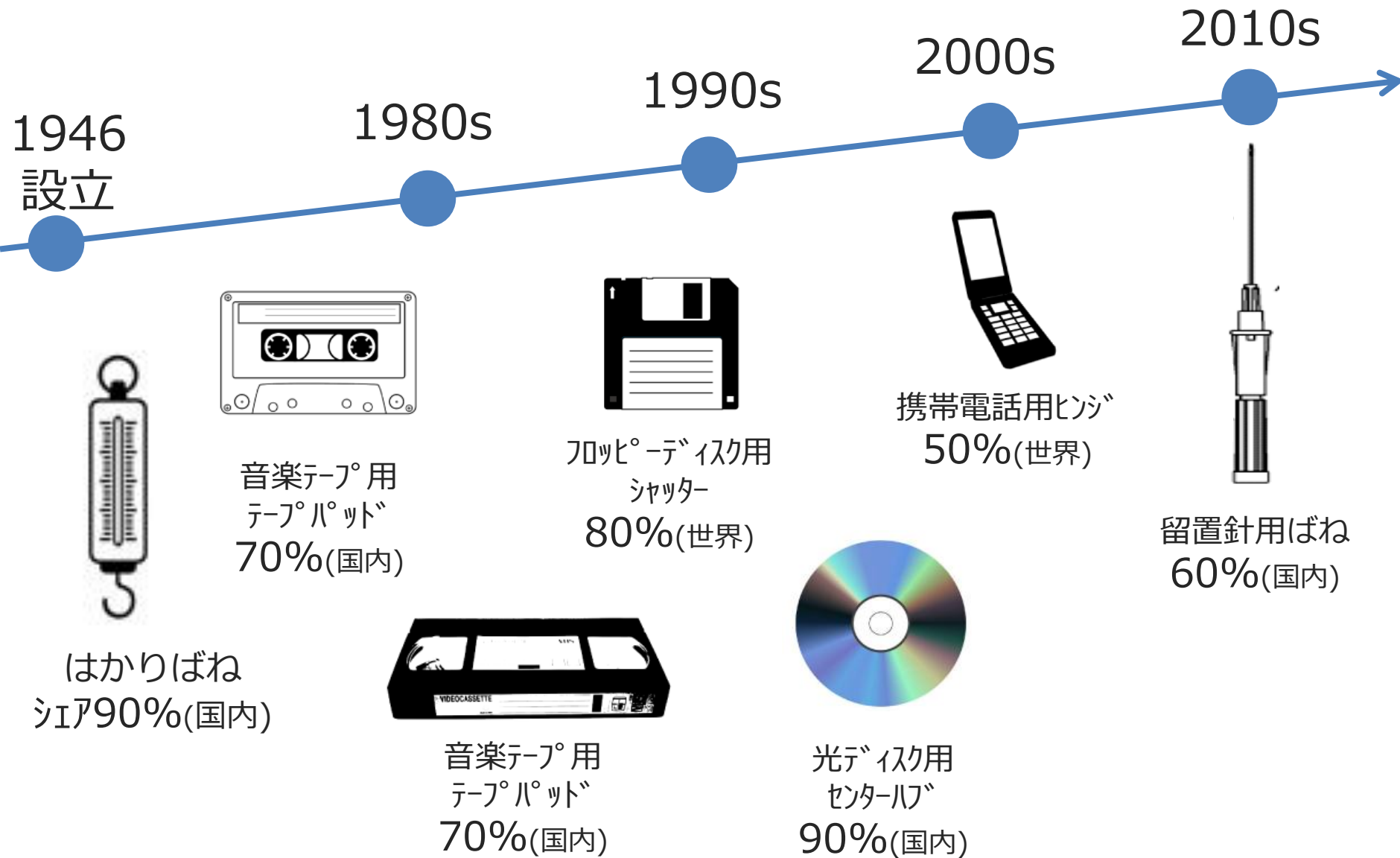
ばね業界において“グローバルニッチ”のポジション

ばねメーカー分布



(参考資料) 精密ばね事業の業績推移





- 1930年 東京都江戸川区にばね専門工場を創業。
- 1946年 株式会社に改組、資本金を199千円で
「株式会社加藤スプリング製作所」を設立。本社工場を練馬区関町に置く。
- 1964年 東証二部上場。
- 1971年 カトウスプリングUSAをロサンゼルスに設立。
(初の海外進出)
- 1976年 新潟県柏崎市に新潟工場を建設し操業を開始。
- 1978年 カトウスプリング・シンガポールを設立
(初の海外生産拠点)
- 2001年 株式会社アドバネクスに社名を変更。
- 2004年 東証一部に指定替え。
- 2014年 船橋電子株式会社を子会社化。
- 2015年 第一化成ホールディングス
(プラスチック事業)の全株式を譲渡。
埼玉工場設立。



1957年頃の作業風景



新潟工場



埼玉工場

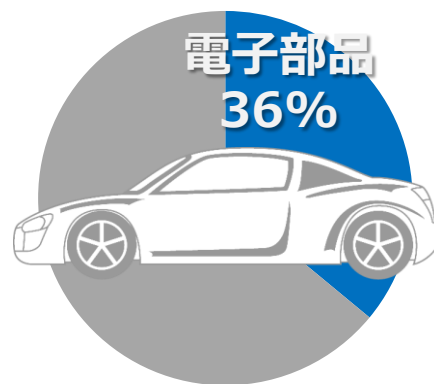
自動車の電子化が進む
元々エレクトロニクスに強かった当社には追い風

電子部品が占めるコスト(普通車の場合)

2008年



2020年



* ハイブリッド車の場合、電子部品コストは
2008年47%、2020年67%

* 電気自動車(EV)の場合は、
2015年70%以上

出典:日経ビジネス、経済産業省

電子制御の流れと当社部品



軽量化のため、部品は鉄製からプラスチック製へ
ボルト締め部分を補強する、「インサートカラー」の需要が増加



インサートカラー



プラスチック製自動車部品

拡大の背景と製品優位性



従来品は切削加工



バックドアなどの筐体
もプラスチックに

①従来品の半値以下

高コストの切削加工から低コストの
フォーミング加工へ工法転換

②使用数増(100~200個/1台)

バックドア、エンジン周り
などもプラスチック化



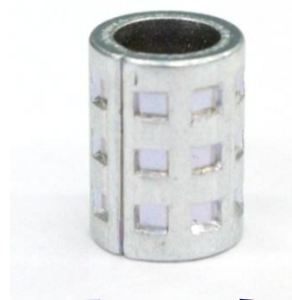
従来はカスタム品のみ
規格品のカタログ販売を計画

③潜在市場(伸びシロ)

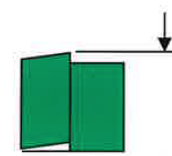
欧米系向けに規格品を
ラインナップ

④技術的優位性

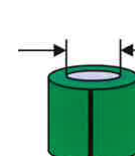
ばね技術を応用、
他社はマネできず



繋ぎ目隙間



巻きズレ



内径交差

燃費・安全性向上に伴い電子部品が増加、
参入領域が拡大

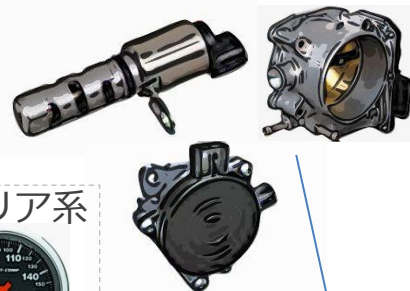
難易度・品質管理レベル

<安全・制御系の電子部品>
車両の状態をセンサーにより感知・把握し、
自動制御することで走行の安定性を確保

安全・制御系(ADAS)



パワートレイン系



インテリア・エクステリア系



オプション系



<パワートレイン系の電子部品>
最高の燃焼効率、且つ、最小のガス排気になるよう
混合気配合、着火、吸気・排気量などを調節

自動運転、EV向け



2005年

2015年

2025年

(参考資料) 自動車向け拡大のイメージ

エリア、顧客、加工技術、参入領域
4軸をそれぞれ伸ばし拡大

エリア拡大

2015年～ インドネシア、メキシコ、
チェコ、インド、ベトナム
2010年～ 英国
2005年～ 米国、中国
2000年～ 日本、タイ

2015年～ 安全・制御関連、
自動運転、HEV・EV
2010年～ パワートレイン
2005年～ 計器、インテリア
2000年～ カーエレ、アンテナ

参入領域

顧客

(Confidential)

2015年～ 深絞り、端面研削
2010年～ インサートモールド
2005年～ インサートカラー
2000年～ 線ばね、板ばね、
フォーミング

加工技術

20??年

2020/3期 140億円

2016/3期 70億円

2011/3期 21億円

2006/3期 11億円

アルミ、CFRPなどの軽量材のねじ穴を補強

(軟質材に直接ねじを挿入するとねじ山が壊れる)

タングレス・インサートと挿入工具



使用例



ボルト締め

挿入後

挿入前



カットサンプル

タングレス・インサートと従来品の比較

形状

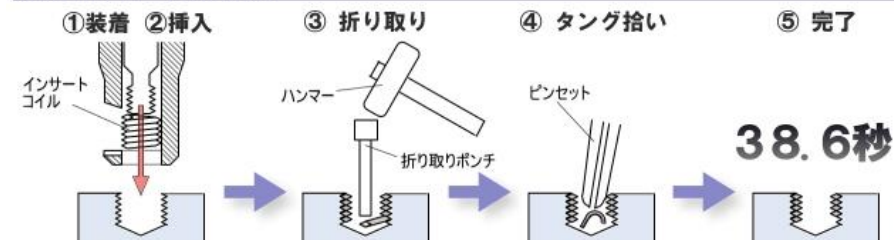


参照: (株)アキレイトのHP

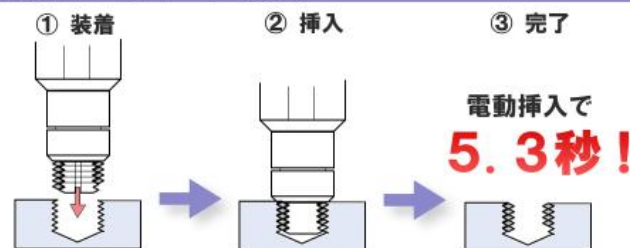
作業性

③作業時間が短縮できます 従来インサートとタングレス・インサートの違い

従来インサートの作業



タングレス・インサートの作業



参照: (株)アキレイトのHP

タングレス・インサートは、

- 作業スピードが速い
- 熟練を要しない

⇒ 飛行機や鉄道車両など大量に使用する分野で特に有利

航空機・高速鉄道の軽量化と規模拡大が売上増の要因

有望市場



航空機

- CFRP、アルミリチウム合金の普及
- 海外渡航需要増を背景とした航空機生産数の増加

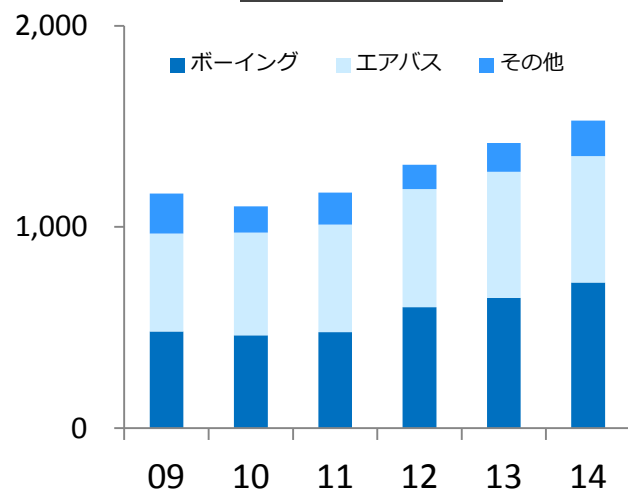


鉄道

- アルミなどの軽量材が一般化
- 世界的に高速鉄道が普及

(単位：1機)

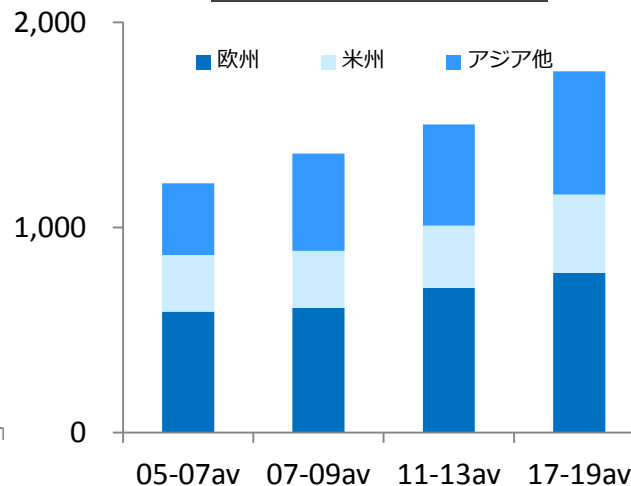
航空機生産台数



参照:日本航空機開発協会

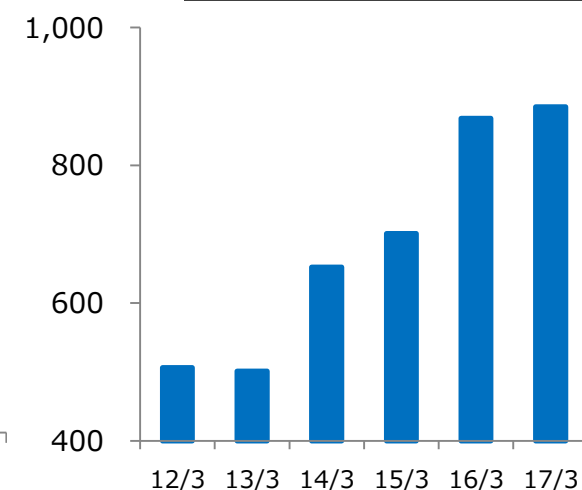
(単位：億円)

鉄道産業の市場規模



参照：UNIFE

(単位：百万円) タングレス・インサート売上



“ばね機構”のナット脱落防止具



ロックワン



鉄道



道路橋梁



太陽光パネル

圧倒的な優位性を武器に置き換え・新規分野を狙う

他社製品との比較

	緩み止効果	コスト	作業性
 ロックワン *当社	7.0/8.0	○ ボルト・ナットは標準品	○ 作業工数が少ない
A社製	4.5	×	×
B社製	4.0	○	×
C社製	0.0	○	○

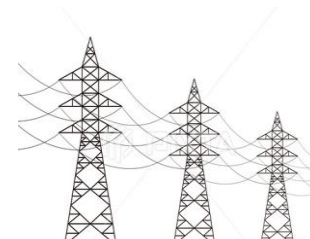
他社製からの置き換え分野



鉄道



道路



電力

新規分野



住設



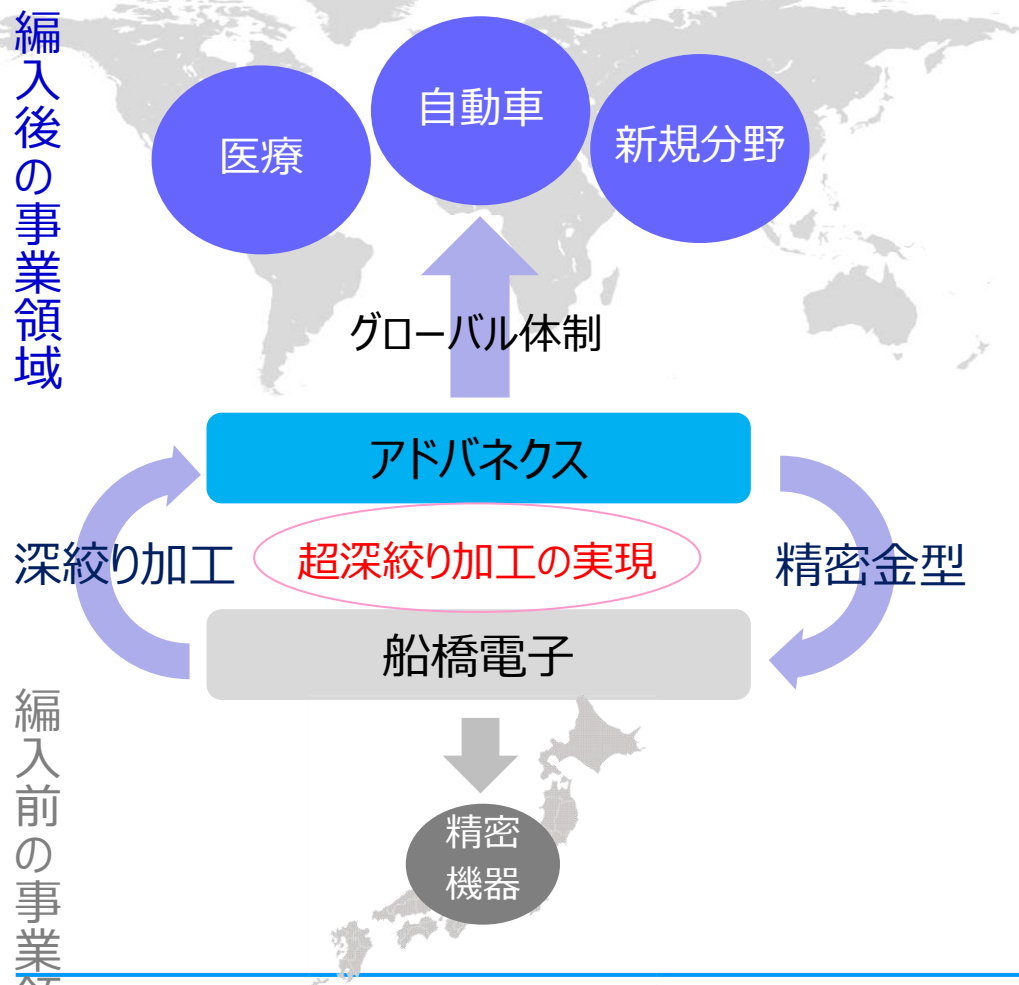
ソーラーパネル



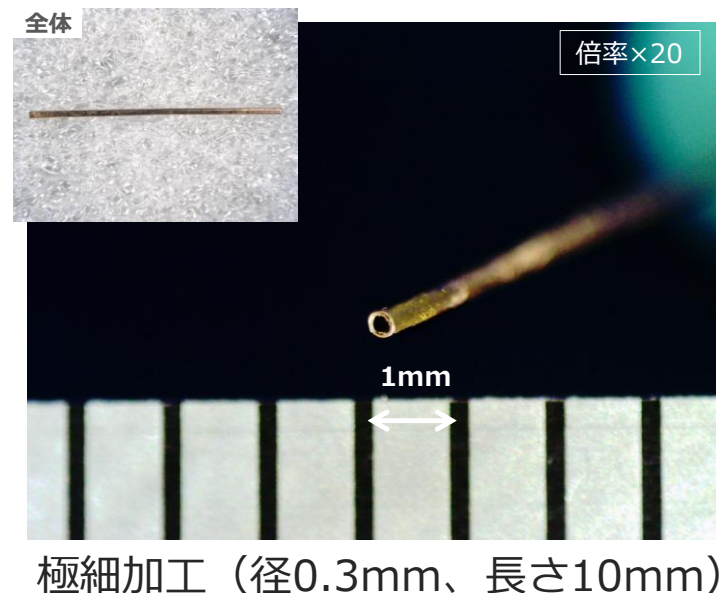
Eコマース、
販社

2015年4月、深絞り加工の船橋電子を編入
当社金型技術と融合し世界最小径加工を実現。海外や自動車・医療分野にも展開

当社編入後の事業展開



最新の加工事例



深絞り、フォーミング加工への工法転換により大幅コストダウン

